

# 「生涯活躍のまち」アドバイザー 研修テキスト

令和3年3月

内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局



## はじめに

### <本テキストの構成>

・本テキストは「生涯活躍のまち」アドバイザーについて以下の項目に沿って学んでいきます。

## I. 基礎知識

I-1 : 中高年齢者の移住から全世代・全員活躍型のコミュニティづくりへ・・・P4

I-2 : アドバイザーの必要性と位置づけ・・・・・・・・・・・・・・・・・・P7

## II. 役割とスキル

II-1 : 役割・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P10

II-2 : スキル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P13

## III. 機能毎のアドバイス

III-1 : 「交流・居場所」に関するアドバイス・・・・・・・・・・P20

III-2 : 「活躍・しごと」に関するアドバイス・・・・・・・・・・P24

III-3 : 「住まい」に関するアドバイス・・・・・・・・・・P28

III-4 : 「健康」に関するアドバイス・・・・・・・・・・P33

III-5 : 「人の流れづくり」に関するアドバイス・・・・・・・・P36

III-6 : 総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P40

## IV. より実践的なアドバイスに向けて

IV-1 : アドバイザーの試行的事業の報告・・・・・・・・・・P41

IV-2 : その他参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・P47

## I. 基礎知識

本章では、「生涯活躍のまち」の施策内容の変遷や自治体の課題等の理解をととして「生涯活躍のまち」のアドバイザーの必要性について理解を深めます。

- ・ I - 1 : 中高年齢者の移住から全世代・全員活躍型のコミュニティづくりへ
- ・ I - 2 : アドバイザーの必要性と位置づけについて

### I - 1 : 中高年齢者の移住から全世代・全員活躍型のコミュニティづくりへ

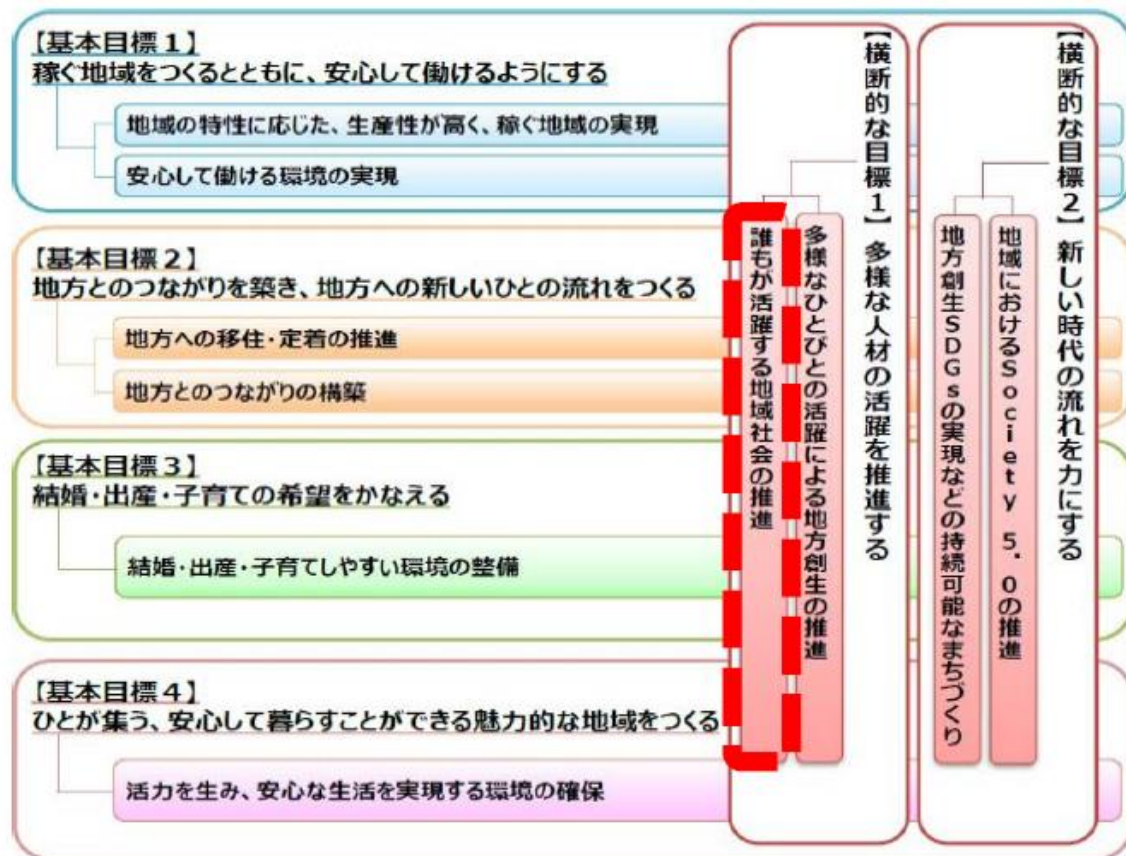
#### ☆POINT

- ・ 第1期総合戦略から、第2期総合戦略における「全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」(誰もが居場所と役割を持って活躍できるコミュニティづくり) への転換の経緯
- ・ コミュニティに必要な5つの機能(「交流・居場所」「活躍・しごと」「住まい」「健康」「地方への人の流れ」) について

#### ◇転換の経緯

- ・ 第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略における「生涯活躍のまち」は、①東京圏をはじめとした大都市の中高年齢者の地方への移住の希望を叶えるため、②地方へのひとの流れづくりの一環として取組を推進し、③東京圏の高齢化問題への対応を図るというコンセプトのもと、「中高年齢者が希望に応じて地方や「まちなか」に移り住み、地域の多世代の住民と交流しながら、生涯学習・就業・ボランティア等を通じて健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができるような地域づくりを目指す取組」とされ、「中高年齢者の住み替え・移住と活躍」を中心とした施策として位置づけられました。
- ・ しかしながら、成功事例といわれている各地の「生涯活躍のまち」の取組や類似の取組においては、多様な世代や人々がつながりを持ち、その中で役割をもって、生き生きと暮らしている地域コミュニティづくりを進めることにより、まちの魅力が向上し、結果として中高年齢者のみならず若者や子育て世代をはじめとした「ひと」を呼び込み、地域が活性化していることが、各種検討会等において報告されました。
- ・ このような実態や有識者による検討結果等を踏まえ、令和元年度を始期とする第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略(令和元年12月20日閣議決定。2020改訂版令和2年12月21日閣議決定以下、「第2期総合戦略」)では、これまで中高年齢者の移住に重点が置かれていた「生涯活躍のまち」について位置付けを見直し、抜本的な強化を図ることとしました。
- ・ 具体的には、対象年齢層を中高年齢者に限らず、全世代に拡充し、地域と多様に関

わるひとの流れをより幅広い概念で捉え直すことで、移住に限らず、関係人口を含むこととすることによって、新たな「生涯活躍のまち」は従前の概念を包含し、移住者や関係人口と地元住民双方を対象とした「誰もが居場所と役割を持って活躍できるコミュニティづくり」を推進する施策として位置付けられました。



【参考】第2期総合戦略（R1. 12. 20）

（1）横断的な目標の追加

（多様な人材の活躍を推進する）

地方創生が点の取組から面の取組に広がり、真に継続・発展していくためには、域内外にかかわらず、地域に関わる一人ひとりが地域の担い手として自ら積極的に参画し、地域資源を活用しながら、地域の実情に応じた内発的な発展につなげていくことが必要である。このため、多様な人材が活躍できる環境づくりを積極的に進める。

また、活気あふれる地域をつくるため、若者、高齢者、女性、障害者、外国人など、誰もが居場所と役割を持ち活躍できる地域社会を目指す。

◇第2期総合戦略における「生涯活躍のまち」の位置づけ～5つの機能について

- ・第2期総合戦略では「生涯活躍のまち」を、誰もが居場所と役割を持つ「ごちゃまぜ」のコミュニティを実現する手段＝「全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」」として位置づけ、推進しています。

【参考】第2期総合戦略（R1.12.20）

①全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」の推進強化

活気あふれる温もりのある地域をつくるため、女性、高齢者、障害者、ひきこもりの方など、性別や年齢、障害の有無等を問わず、一人ひとりが個性と多様性を尊重され、支援する側とされる側が可変的となり、それぞれの希望に応じて、それぞれの持つ能力を発揮し、生きがいを感じながら暮らすことができる地域コミュニティの実現が不可欠である。

こうした誰もが居場所と役割を持つ「ごちゃまぜ」のコミュニティの実現を図る手段として、全世代・全活躍型「生涯活躍のまち」を推進するとともに、「関係人口×生涯活躍のまち」といった視点を踏まえ、都市部と地方の人材循環を通じたコミュニティへのひとの流れづくりや、官民連携による事業モデルづくりなど安定的・継続的なコミュニティの事業運営基盤の確立に向けた取組を推進する。特に、こうしたコミュニティには、「交流・居場所」、「活躍・しごと」、「住まい」、「健康」などの機能が求められることから、地方公共団体や事業者などの関係者向けのガイドライン等に基づく取組を推進する。

また、「生涯活躍のまち」に取り組む地方公共団体の課題等に対応するため、これまでの調査研究で得られた成果を踏まえつつ、関係各省庁の施策を総合的に活用するなど、各地域の全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」づくりの取組に対する重層的な支援体制の強化を図る。

図：全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」に求められる機能



・コミュニティづくりに必要な各機能（「交流・居場所」「活躍・しごと」「住まい」「健康」、及び都市と地方の人材循環＝「地方への人の流れ」）は個々に対応するものではなく、「点から面へ」、エリア全体を視野に入れ、コミュニティ全体の魅力の向上を図るといった視点が必要となります。

また、これらの各機能を、地域の特性や課題に応じて、既存の取組を生かしながら、中長期的にコミュニティ全体で各機能を満たしていくことが重要です。

## I - 2 : アドバイザーの必要性と位置づけ

### ☆POINT

- ・意向調査からみる地方公共団体の課題とアドバイザーへの要望
- ・第2期総合戦略における「生涯活躍のまち」アドバイザーの位置づけ

### ◇「生涯活躍のまち」の事業推進における地方公共団体の課題と要望

「生涯活躍のまち」の転換を受けて、地方公共団体が事業を進めるにあたり、「生涯活躍のまちづくりに関する意向等調査」では、特に以下のような課題が示されました。

### ●「意向なし」又は「今後検討」と回答した理由 (n = 1,422) ※複数回答可

所管部署が不明	横断的に検討する組織を構築できていない	人的資源の不足	財政面に余裕がない	中高年齢者の移住施策でないため	首長等の方針	施策分野が幅広くどこから手を付けてよいかわからない	事業目的・概要がよく理解できない	メリットが不明	本事業よりも優先すべき事業があるため	その他
444	632	685	583	59	137	493	286	128	136	170
31%	44%	48%	41%	4%	10%	35%	20%	9%	10%	12%

#### 【自由記入欄より】

- ・コミュニティの基盤強化を進めているが、そこで必要とされる機能の確保にかかわる部署との温度差がある。
- ・日本版 CCRC から総活躍社会や共生社会までを含んだ施策となり、人口減少対策の中では、人材の確保面から取組が必要である。
- ・事業対象が拡大されたため、活用を前向きに検討させていただきたいが、財政面の課題がネックとなっている。
- ・現時点では新たな「生涯活躍のまち」の推進に向けた国の計画やガイドライン等が策定されておらず、判断材料が乏しいため。
- ・次期地方版総合戦略を策定中であり、総合的に検討中であるため。

(参考：令和2年7月21日 地方創生に関する都道府県・指定都市担当課長説明会資料4. 全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」の推進について)

「横断的に検討する組織を構築できていない」「どこから手を付けてよいかわからない」といった、生涯活躍のまちの取組が幅広となったことを受け、事業体制や方針について検討される上で、以下のような意見も自治体より示されました。



実際に地域での事業・活動を担う人材（マンパワー）が不足している。

- ・抽象的、概念的なものではなく課題に具体的にアドバイスが出来る実践的な人材を育成してほしい。
- ・事業を通して、地域の課題解決に関わる人を探し、繋ぐといった働きをもつキーマンが必要である。
- ・県域ごとにアドバイザーがいれば、各種事業についての相談窓口となり、ありがたい。
- ・補助金や交付金頼みの事業では持続可能性に難があることから、県と市町村の連携についても考えていく必要がある。

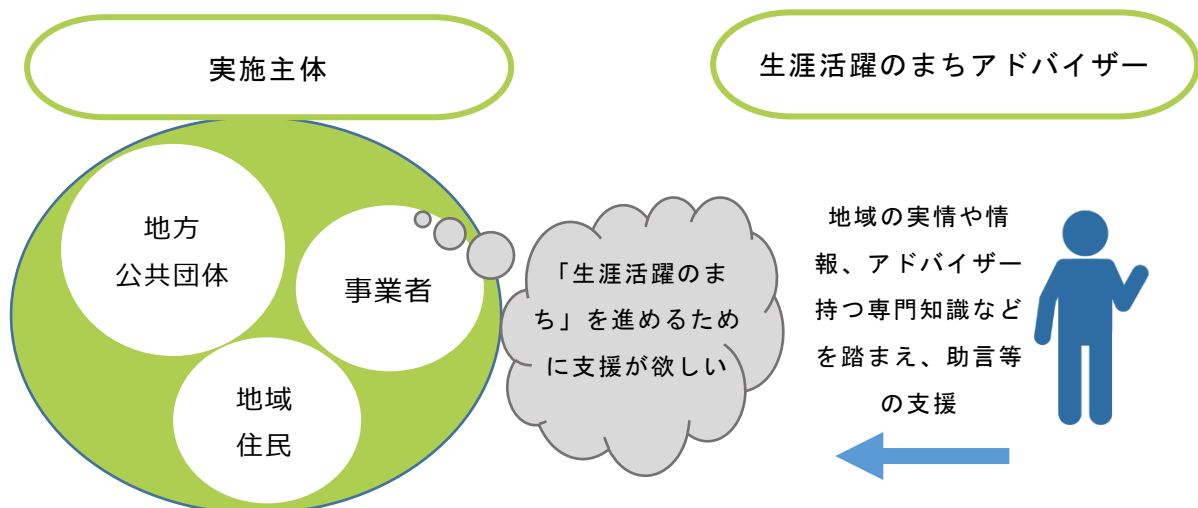
(参考：令和2年7月21日 地方創生に関する都道府県・指定都市担当課長説明会 資料4.全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」の推進について)

こうした経緯を踏まえ、第2期総合戦略(R2. 12. 20)ではアドバイザー人材を位置づけ、地方公共団体の支援を図ることを明記しています。

#### 第2期総合戦略 (R1. 12. 20)

(「生涯活躍のまち」推進に向けた支援体制の強化)

(i)これまでの調査研究事業の成果を踏まえつつ、「生涯活躍のまち」に関する知識を有した地方公共団体職員や不動産、金融、商業、医療福祉など関連する専門知識を有するアドバイザー人材や事業の担い手となるプロデューサー人材等を必要とする地方公共団体等に対し、「生涯活躍のまち」に取り組む中間支援組織等と連携したマッチングを促進することで、「生涯活躍のまち」の取組に未着手の地方公共団体の新たな掘り起こしを含めた取組支援を行う。



なお、生涯活躍のまちの事業を進めるためには、以下のような視点や体制、考え方が重要となります。こうした観点を踏まえつつ、アドバイザーに求められる能力や手法について、次章で見ていきたいと思います。



- ・短期的な視点で個々に対応するのではなく中長期的な視点で各機能を意識し、コミュニティ全体の魅力の向上を図るという視点
- ・屋内外の一定の空間の構造や外形、動線等も含めた「空間デザイン」に配慮し、コミュニティエリア全体の魅力の向上を図る視点
- ・「交流・居場所」「活躍・しごと」「住まい」「健康」といった分野横断的な取組が必要とされることから、多岐にわたる関係者が連携・協働してまちづくりに取り組む体制
- ・「生涯活躍のまち」は多岐にわたる分野横断的な取組であることから、官民協働の取組を推進していく体制
- ・計画・企画段階から住民も含めた関係者と連携する体制
- ・安定的な財政・事業基盤の確立 等

(参考 「生涯活躍のまち」づくりに関するガイドライン ～新たな全世代・全員活躍型のコミュニティづくり～)

## Ⅱ．「生涯活躍のまち」アドバイザーに求められる役割とスキル

本章においては、アドバイザーの役割や必要な能力について解説します。

Ⅱ－１：役割

Ⅱ－２：スキル

### Ⅱ－１：役割

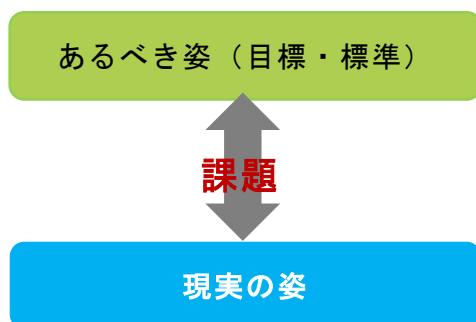
☆POINT

- ・どの段階からアドバイザーは必要か
- ・誰がアドバイザーの担い手となるか

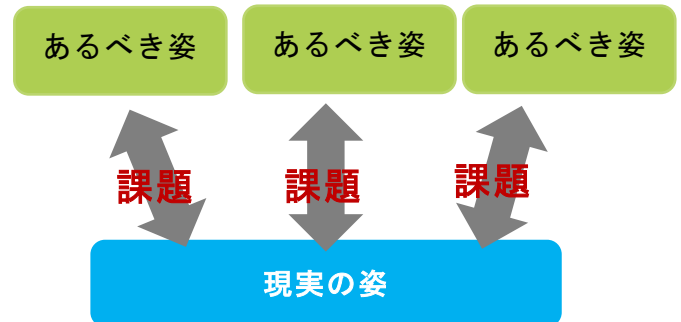
#### ◇アドバイザーが必要な段階

・アドバイザーは「生涯活躍のまち」に取り組む地方公共団体や事業者（以下、実施主体）の課題（＝あるべき姿（目標）と現実の姿のギャップ）に対してアドバイスを行います。その課題が「既知」であるか「未知」であるかという大きく２つの段階によって、アドバイザーの役割もまた変化が生じます。

#### ①「あるべき姿」が定まっている



#### ②あるべき姿が定まっていない



・①「あるべき姿が定まっている」状態は、実施主体（内部）で課題が共有されているため、実施主体にとって課題が「既知」の状態です。そのため、アドバイザーは具体的にその課題の解決方法や知識を提供する役割を担います。

・②「あるべき姿が定まっていない」状態は、実施主体（内部）において目標（あるべき姿）が定まらず、人によって見え方が違うか、見えていない「未知」の状態といえます。アドバイザーから、その課題が「既知」ならば実施主体に指摘をし、「新たな気づき」を促します。しかしながら、アドバイザーにも「未知」である場合、議論を通して課題を顕在化し、実施主体、アドバイザー双方にとって新たな気づきになることが必要です。

実施主体（地方公共団体や事業者）

アドバイザー	既知の課題	未知の課題
	見える課題 ・課題解決のリソース（知識・技術）	・自治体にとって新たな気づき
		・双方にとって新たな気づき

◇アドバイスの方法

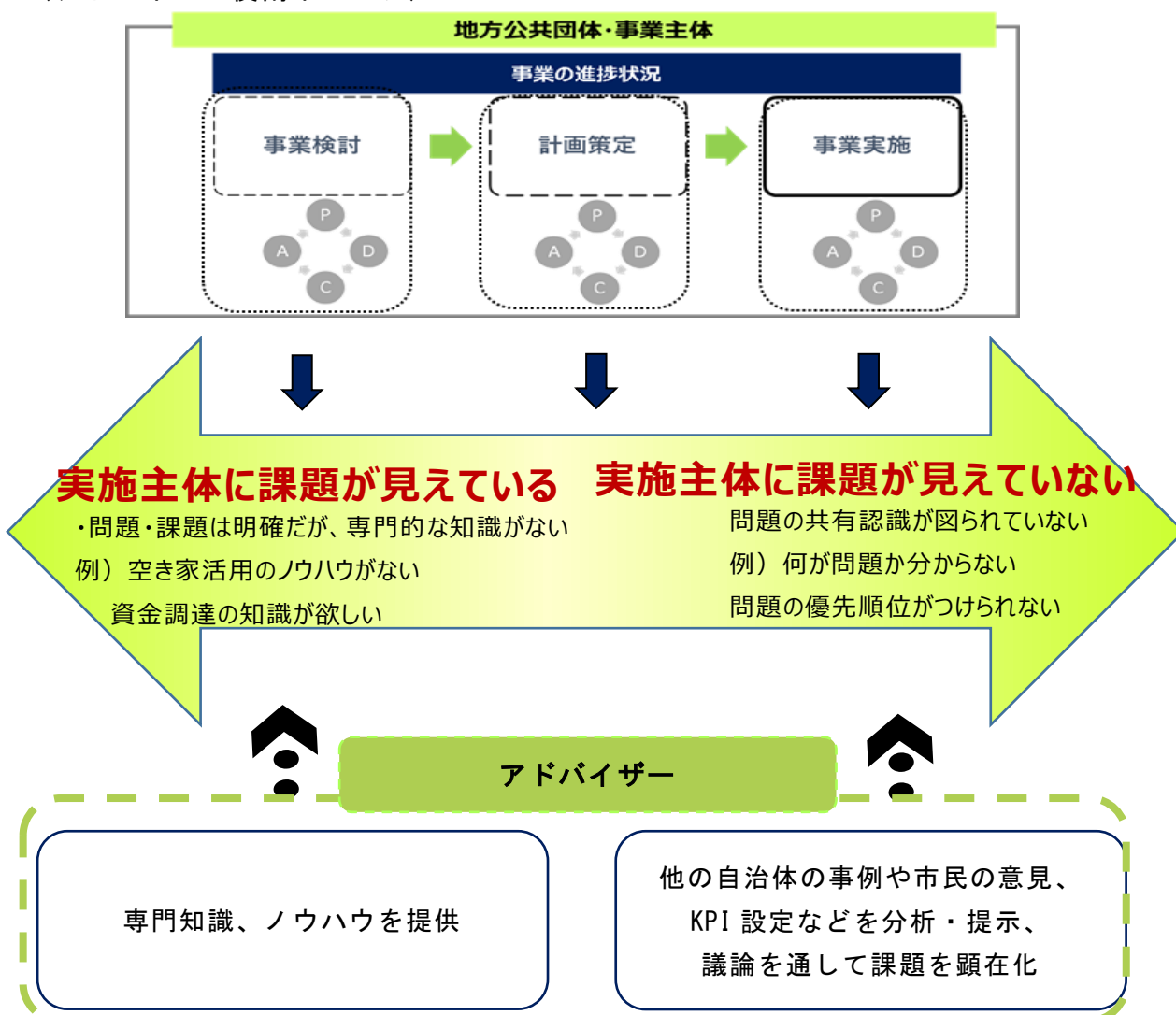
・「既知の課題」へのアドバイス

①解決策を検討が必要です。実施主体が、課題解決するためのリソース（専門知識や技術）を持っていない場合、アドバイザーはリソースを提供します。

・「未知の課題」へのアドバイス

②実施主体の目標設定を見直します。また、現状分析を行い、課題を可視化します。

（アドバイスの役割イメージ）



### ◇アドバイザーの担い手

- ・アドバイスの課題の内容に基づき、様々なスキルや専門知識が実施主体の地域課題の解決や新たな気づきに寄与します。
- ・「生涯活躍のまち」に関する知識を有した地方公共団体職員や不動産、金融、商業、医療福祉など、各専門性を備えた人材がアドバイザーの担い手となりえます。

(参考) 専門的な知識例

行政手続・行政規範	公共施設利活用	資金調達・資金運営
人材循環・人材派遣	関係人口創出	産官学民連携の構築
女性高齢者の就労支援	不動産・遊休資源活	健康増進・医療福祉
ICT技術の利活用	観光・インバウンド	ポストコロナ関連

(参考) 上記要素に関連する団体と具体的な取組

<p>○地方公共団体</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの「生涯活躍のまち」実績ストック</li> <li>・住民等への巻き込み方</li> <li>・首長や議会への説明</li> <li>・庁内連携の手法やプロセス</li> <li>・公民館等の公共施設の別途利活用</li> <li>・地方創生関連交付金のノウハウ</li> <li>・地方創生応援税制のノウハウ</li> </ul>	<p>○金融機関</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・政府系金融機関などによる公的融資</li> <li>・地方創生に関心を持つ民間金融機関による融資</li> <li>・クラウドファンディング活用方策</li> <li>・ファイナンス手法</li> </ul>
<p>○不動産</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家・空き店舗や廃校等の活用</li> <li>・老朽化する民間施設や団地再生</li> <li>・遊休公的不動産 (PRE) の活用</li> <li>・DIY、リノベーション</li> </ul>	<p>○健康増進、医療・福祉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケアシステム</li> <li>・サービス付き高齢者住宅</li> <li>・フィットネス事業</li> <li>・地域リハビリテーション</li> </ul>
<p>○ICT 関連企業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソサエティ 5.0</li> <li>・5G</li> <li>・リモートワーク</li> </ul>	<p>○大学、教育機関</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リカレント教育</li> <li>・学校運営協議会</li> <li>・子育てサロン</li> </ul>
<p>○観光・関係人口創出</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サテライトオフィスやワーケーション</li> <li>・UIJ ターン促進</li> <li>・交通機関の充実・整備</li> </ul>	<p>○就労支援に関係する企業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・セカンドキャリア</li> <li>・障害者就業支援</li> <li>・農福連携</li> </ul>

## Ⅱ－２：スキル

### ☆POINT

- ・アドバイザーに求められるスキル
- ・どうやってアドバイスを行うか

### ◇アドバイスに必要な観点

・「生涯活躍のまち」アドバイザーが事業主体へアドバイスなどを行うときには、以下のような観点を持ちつつ、アドバイスをすることが重要です。

#### 傾聴の観点

「積極的傾聴」の観点

1. 自己一致：話を聴いて分からないことをそのままにせず聴き直す等、常に真摯な態度で真意を把握する
2. 共感的理解：相手の立場になって話を聴く
3. 無条件の肯定的配慮：善悪や好き嫌いといった評価をせず、肯定的な関心を持ちながら話を聴く

#### 質問の観点

・5W1H「いつ：When、どこで：Where、だれが：Who、なにを：What、なぜ：Why、どのように：How」

・考えを深める質問を心がけ

→未来を予測させる質問：相手のありたい姿、目指す姿を引き出す

→リソースを引き出す質問：過去の経験や人脈など、リソースを引き出す。

→視点を変えさせる質問：第三者視点や、時間軸、空間軸を変えた質問で、相手の視点を変えて気づきを起こす。

○言葉の意味を明確にする質問：抽象的であいまいな言葉を明確にする。

#### 整理の観点

・情報の要不要を見極める→情報をグループ分けする→情報に優先順位をつける

#### 伝達の観点

- ・伝える情報の「選択と集中」、物事を「構造化」する、イメージに変換し伝える
- ・ピラミッド構造を用いる（結論から伝え理由を述べる）

- ・先述の観点を踏まえ以下のような方法を用いながら、アドバイザーとして実施主体と関わることが必要です。

### 傾聴する

- ・該当地域や実施主体の事前情報を収集する。
- ・実施主体のヒアリングの際、自説は押し付けず、課題のレベル感などの情報を収集

#### 【傾聴する・具体例】

- 「うなずき」、「相槌」、「アイコンタクト」、「間を取る」
- 鏡のように話し手と同調する（ミラーリング）。
- 言葉で理解を示す（相手が話した内容をそのまま繰り返すおうむ返しなど）。

### 質問する

- ・実施主体の課題や事業の況等、情報の引き出しを行う。  
（実施主体へのヒアリングや現地質問調査、書類のデータ分析など）

#### 【質問する・具体例】

- ヒアリングシートをつくる。
  - 「あなた」にスポットをあてる（地域の課題を「自分事」として、当事者意識をもって考えてもらう）。
  - 現実のギャップを探る。
  - 量よりも質を重視する。
- ※服装や持ち物は、持ち主のアイデンティティや強みにつながっています。職場や生活環境はその場を使う人の文化や思想の片鱗が読み取れることもあります。言語のコミュニケーションだけに頼らず、ものや環境にも注目しましょう。

### 整理する

- ・PDCAサイクルの結果やKPIの達成率、住民ニーズや、実施主体の今後の実現可能性など、現状分析を行い、今後の方向性を明らかにする。

#### 【質問する・具体例】

- 相手の考えが整理されるような質問をする。
- 相手の言ったことを3つ程度にまとめて、言い換える。
- 実施主体のやりたいこと(will・wish)、できること(can)、地域が求めていること(need)等を整理。
- 模造紙、ポストイット、黒板シート、チョークなどを利用して各自のアイデアや考えを整理。



出典：生涯活躍のまちアドバイザー研修西上委員資料

## 伝達する

・これまでの経緯で抽出された課題や今後の方向性を踏まえ、適切な助言や指導を行う。

### 【伝達する・具体例】

- 「正しさ」だけでなく「楽しさ」も提示する。
- 地域の魅力と面白さを伝える
- 前向きに未来について話せる雰囲気づくりに努める。
- プロジェクトにポジティブな要素(楽しさ、おいしさ、美しさ、笑い)があるかを確認。



出典：生涯活躍のまちアドバイザー研修西上委員資料

## Column: Yes and(いいね〜、さらにこうしてみようよ!)から始めよう

### 基本姿勢

- コミュニケーションの方法 Yes, and (イエス・アンド)



出典：生涯活躍のまちアドバイザー研修西上委員資料

・アドバイザーに最も必要なコミュニケーションは「肯定的な」コミュニケーションです。相手の発言等に対して、さらなる提案ができるような知的なストックを備えておく必要があります。知識量を増やすための事例や書籍の収集と分析、いつでも事例として見せられるようにスライド等を準備しておきましょう。また、地域の情報を収集し、キーパーソン等をヒアリングしながら関係づくりに努めることも重要です。これらの情報は、写真、動画、文章、位置情報として記録するものなどがあり、用途に応じたアーカイブをつくっておきましょう。

・自分なりのアドバイザーとはなにかを言語化し、目標を立てるため、仕事の手順を検討し、可視化しておくことも重要です。そのためにはフロー図化しておくとも便利です。地域のなかでアドバイザーの認知度を高めるための広報等も忘れずに。広報は、紙媒体でも、SNS等を使うこともできます。地域の状況に合わせた方法を検討しましょう。

・以上のようなことを踏まえて、あなたが検討した「アドバイザー」像には「正しさ」と「楽しさ」の両方の要素が入っているのかを点検してください。「正しい」ことだけでは、すぐに行き詰まってしまうし、人はなかなか動きません。感性に訴えかけるような楽しさ、美味しさ、笑いなどが入っていないければ、継続するのも難しくなります。そのためにはデザインの力を使う方法があります。空間のデザイン、資料のグラフィックデザイン、質問者の服装、お茶菓子など場の演出などによって、発言しやすく行動しやすい場づくりもできるのです。



◇アドバイザーの実施主体への関わり方について

アドバイザーには、実施主体に対して、以下のように、関わり方を使い分け、問題解決を進める役割もあります。

- ・ 中立的な立場から物事に対して働きかける（ファシリテーターとしての役割）
- ・ 物事を調整する（コーディネーターとしての役割）



ファシリテーター

役場、商店街、医療・介護機関、企業、住民等、「実施主体内」の各々に中立的に関わる



コーディネーター

役場、商店街、医療・介護機関、企業、住民等、各々のキーパーソンに働きかけ「実施主体内」の物事を調整する



人が無関心から参画に至るまでの行動変容

事業実施への後押し

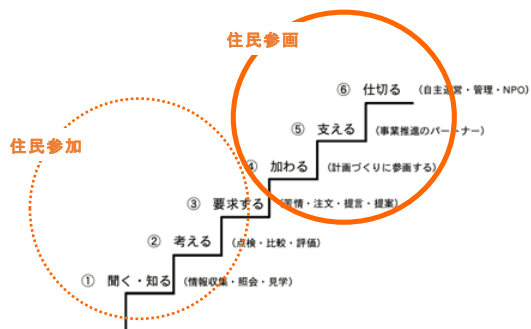
・ 社会学者シェリー・アーンスタインは住民参加の鍵は、情報を共有する（①～③）ことからはじまると「参加の梯子」に示しています。以下の図は、グラウンドレベルに無関心があり、情報共有によって住民参加が起こる様子を表したものです。その先（④～⑥）は、公共的な事業等に加わって目標を達成する権利と実行に取り組むという住民参画に至るまでを示しています。

・ 大切なのは、住民の関心にあわせた方法で情報を届けること、公共的な事業における魅力的な参画の機会を用意することです。コーディネーター、アドバイザーの腕が問われます。

【具体例】

アドバイザーが実施主体のやる気を喚起し、意識を高める。（例えば地域の住民が事業の担い手になるなど）

○プロジェクトに「加わる」→プロジェクトを「支える」→プロジェクトを「仕切る」へと促す。



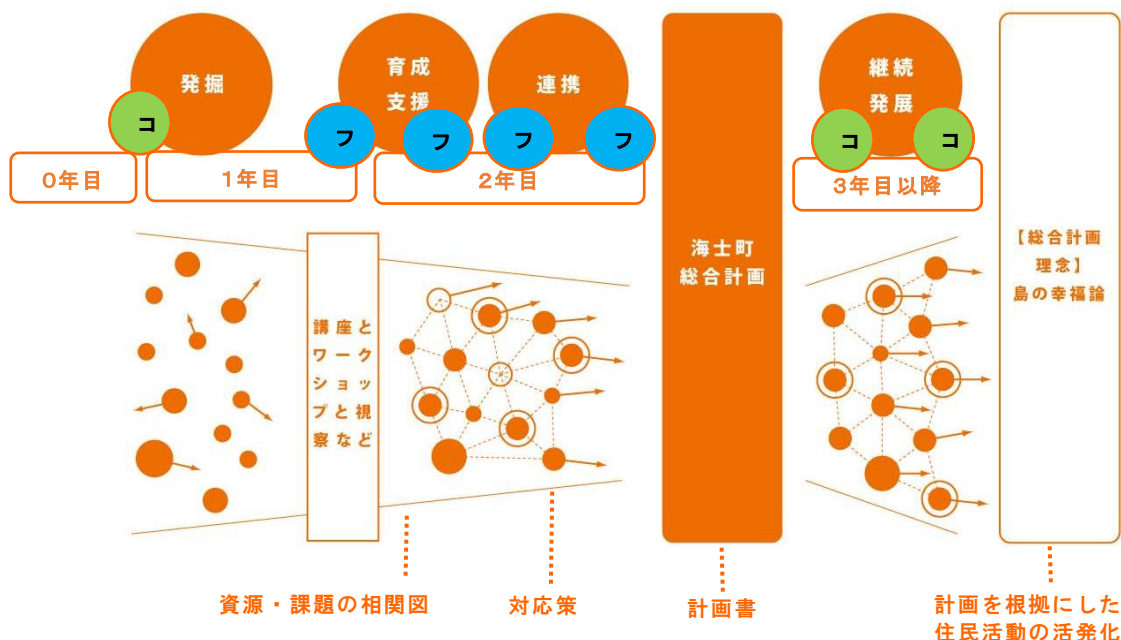
出典：生涯活躍のまちアドバイザー研修・西上委員資料

## ◇事例

### ＜海士町の総合計画策定におけるアドバイザーの取組事例＞

- ・本事例は、海士町がある事業者のアドバイザーに委託して行った総合計画策定事業です。
- ・アドバイザーは、はじめに地域の資源と課題発掘のため 57 名の島民に数ヶ月の時間をかけて 60 分ずつインタビュー調査を実施しました。
- ・その上で、インタビュー内容からキーワードを抽出し、地域が持つ資源と、地域が抱える課題に分類して、相関関係（相関図と想定される対応策）をダイアグラム化しました。ダイアグラム化は半年程度の時間をかけて進めています。相関図と想定される対応策をさらに細分化し、活性化策（産業振興等）、維持策（見守りや健康づくり）、縮小策（見直しや取りやめるべき事業）に分類し、レバレッジポイント（初めに取り組むべきポイント等）を検討しました。
- ・その上で素案策定のための住民ワークショップを 15 回程度開催し、策定委員会を 6 回開催し、総合計画を策定しました。なお、取組には 3 年間の期間をかけて実施し、策定を進めました。
- ・なお、担当者は 1 名で現地との調整を行いました。同じ人物がアドバイザーの役割を担うことで、地域との信頼関係を構築しながら事業を推進でき、自治体にも安心感を与えることができたといえます。他地域で応用する場合も、課題をクリエイティブに解決することが得意なデザイナーや建築家などが一括して引き受けることで、実施主体に寄り添ったアドバイスが可能になると考えられます。

（イメージ：海士町における計画策定の流れ）



出典：生涯活躍のまちアドバイザー研修・西上委員資料

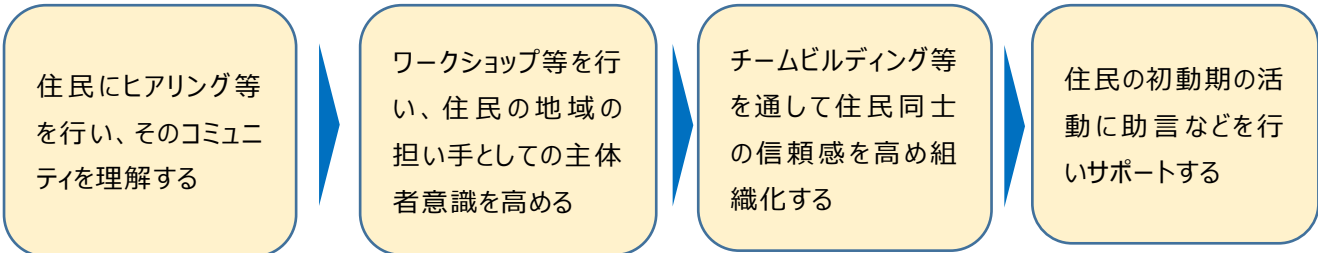
（注）コ＝コーディネーター、フ＝ファシリテーター

⇒アドバイザーが都度、コーディネーター、ファシリテーターなどの役割を使い分けながら、地方公共団体の計画策定に寄与。

<海士町の実際取組の様子>



出典：生涯活躍のまちアドバイザー研修・西上委員資料

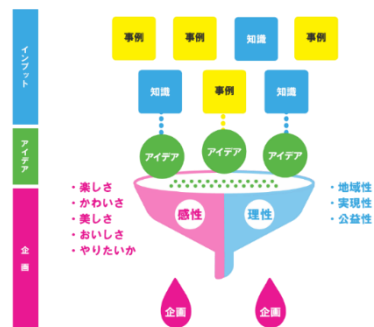


Column: 共感による課題の解決

・近年、制度や予算では解決できない課題について、「楽しそう」「美味しそう」などの共感からはじまる課題解決をすることが重要となっています。共感による課題の解決の必要性について、そのヒントは産業の変遷に見ることができます。

・経済学者である神野直彦氏の著書「人間国家」への改革(p766)によれば、「経済とは、人間が自然に働きかけ、人間の生存に必要な有用物を入手する営み」であると書かれています。自然にはたらしかけて生きていくために必要なものを取り出す（生産する）産業とは農業です。飢餓という課題を乗り越えるために、農業がうまれました。次に工業は農業が作ったものを加工する副業です。工業は大量に生産して販売するで貯蓄することを可能にしました。また工業の周辺にはサービス産業がうまれました。農業と工業とサービス産業の大きな違いは、人間が働きかける対象が異なることです。農業は「自然」に働きかけ、工業は「機械」に働きかけ、サービス産業は「人間」に働きかけます。工業は、人工的なので大量生産ができます。しかし地球環境に大きな負荷をかけ、資源の枯渇など限界が見えています。また何かを大量に消費する需要は減っており、少ない資源で生産に結びつける時代となってきました。こうした経験から量から質の経済へと転換がはじまり、企画・研究・開発などサービス産業が基軸となりはじめています。量

質に変換するためには、たくさんの情報が必要です。情報によって使いやすくなったり、耐久性が増したり、簡単に修理できる、資源が節約になる、輸送コストが減るなど課題が克服されます。情報とは、一人ひとりが持っている知恵や経験です。多様な人たちが参加すればするほど課題の解決につながっていきます。だからこそ、どんな人でも課題を解決する能力を持っているという視点で、「それならわたしも参加したい！」と直感的に思ってしまうキャッチコピーやチラシのデザインや場の演出など、楽しくなる工夫を盛り込んだ参加の場が必要です。



出典：生涯活躍のまちアドバイザー研修・

西上委員資料

### Ⅲ.機能毎のアドバイス

・ここからは、5つの機能を活かしたコミュニティづくりの取組事例をご紹介します、事例から見えるアドバイスをする上で必要な観点をご紹介します。

☆POINT

- ・5つの機能を活かしたコミュニティづくりに関する事業主体の取組事例
- ・事例から見るアドバイスをする上で必要な観点

図：全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」に求められる機能





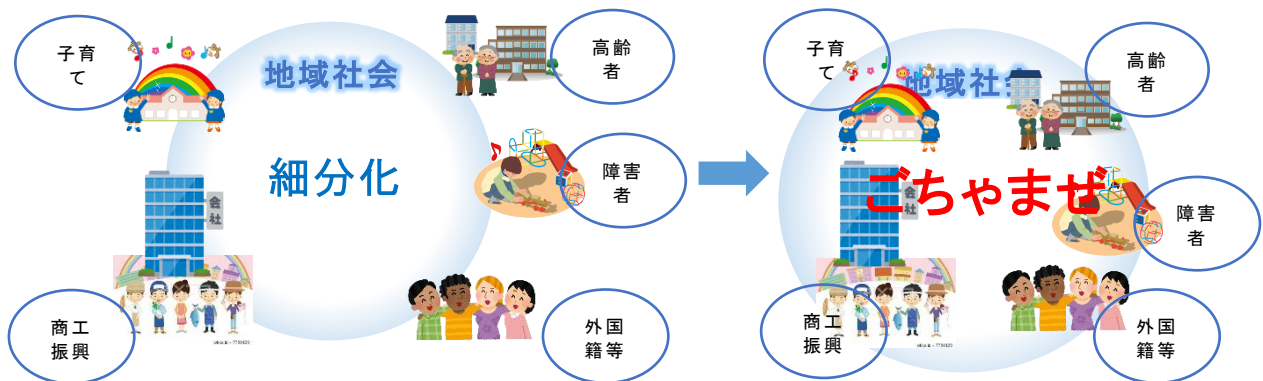
## Ⅲ－１：「交流・居場所」に関するアドバイス

「活躍・しごと」の機能を活かしたコミュニティづくりの取組事例をご紹介します、事例から見えるアドバイスを上です必要な観点をご紹介します。

☆「交流・居場所」の取組事例・・・社会福祉法人佛子園

### ◇「交流・居場所」におけるアドバイスの観点

- ・年齢や性別、障がいの有無を問わず、子ども、学生、子育て中の母親、仕事に従事している人、高齢者、生活困窮者、移住者など多様な人が、それぞれ関わりをもつようになる機能と場（空間）が求められます。また、関わり方のスタンスは能動・受動を問わず、様々です。「交流」の場が多様な人にとって、心地よい「居場所」として機能することが期待されます。
- ・多様な人々の「交流」づくりの方策として、人々が集まれる機能と場を整備するだけでなく、人と人をつなげるしかけ（工夫）により、年齢や性別、障がいの有無を問わないあらゆる者同士の交流・協働を働きかけることが有効と考えられます。
- ・その際、物理的な空間（建物）を「つくる」目線から、コミュニティに関わる者の活動として「つかう」目線に配慮した事業運営を行うことが大切な視点となります。
- ・コミュニティに関わる多様な人々がしごと、運動、食事などの生活全般を通じた交流をすることにより、いわば「ごちゃまぜ」となり、役割を持って活躍する居場所づくりの促進を図ることが求められます。



### ◇具体的なアドバイス方法

- ・「交流・居場所」を中心とした取組実際のアドバイスに当たっては以下のような点を中心にアドバイスをすることが考えられます。

テーマ	課題の洗い出し・見える化	専門的な知識・ノウハウ
誰でも使	・様々な世代・人種・障害の有無などを問わず使うことができるか。（特定のタ	・既存の機能拡大と利用条件の緩和（多機能の複合・連携）

えるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>ーゲットだけが使用するような場所でないか)</li> <li>・使用に制限やルールが多いなど、使いづらいものになっていないか。(時間割や部屋割り、バリアフリーなど)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特化した目的を連想させる施設名称の変更</li> </ul>
誰でも行けるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民がすぐに来られるような場所にあるか。</li> <li>・遠方でも行ける交通の仕組みがあるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・徒歩で通えるような生活圏への設置</li> <li>・デマンドタクシーやバスの活用</li> <li>・自動運転技術や新交通システムの導入</li> </ul>
日常的に使えるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単発のイベントに頼っていないか。</li> <li>・日常的に(用事がなくても)訪れることができる(滞在できる)ような場所か。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温泉や飲食など生活に根差した仕掛け</li> <li>・用がなくても滞在できるスペース</li> <li>・予約等がなくても利用できる</li> <li>・ドッグランなど日常使いできるサービス</li> </ul>
魅力があるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居心地のよい場(人・空間)になっているか</li> <li>・頻繁に訪れたい(利用したい)と思うような場所か</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レイアウトや装飾の工夫</li> <li>・常に人がいる仕掛け(福祉サービスやほか事業との連携)</li> <li>・魅力的な料理</li> </ul>
地域への視点があるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人が繰り返し訪れるような場所になっているか</li> <li>・地域住民のニーズにこたえているか</li> <li>・歴史的背景のある土地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無料、あるいは安価で利用できる仕組み</li> <li>・集会所や宴会所としての活用</li> <li>・自治会との連携、共同</li> </ul>
持続的に使えるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財政的に継続していけるか(収益や制度の利活用)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域交流以外の収益の柱(福祉事業、カフェ、シェア・オフィス等)</li> </ul>
どんな仕掛けがあるか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な人が交流できる仕掛けがあるか</li> <li>・特定の機能や仕掛けだけに特化されていないか</li> <li>・住民同士が支えあう仕掛けがあるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスの縦割り打破(多機能型サービスの実施)</li> <li>・過度な区切りの撤廃(異なる目的の利用者があえて混ざり合うような運営、レイアウト)</li> <li>・過度なサービス提供を避け、適度に利用者に頼る運営姿勢</li> </ul>

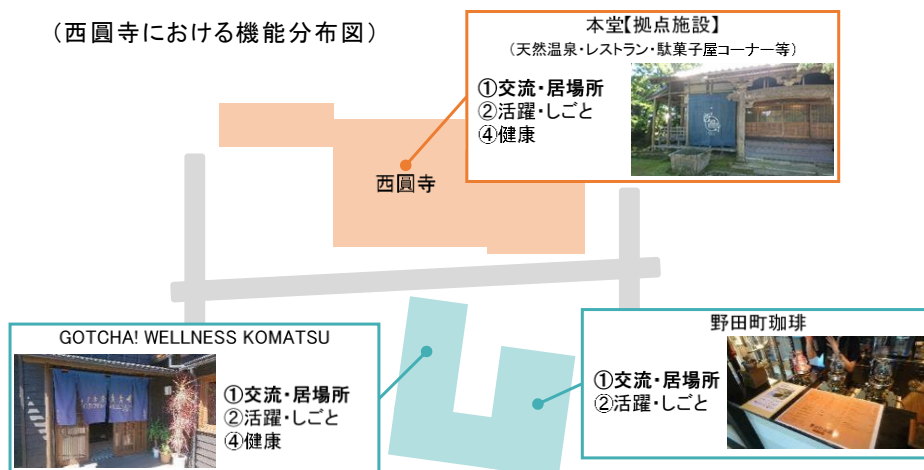
## ◇事例

### <社会福祉法人佛子園の事例>

- ・三草二木西園寺（以下、西園寺）は1473年に加賀藩安宅の浦（現・石川県小松市安宅町）に創建された寺院であり、200～300年前に野田町に移築されました。平成17年に住職が亡くなり、後継者がおらず廃寺となり、西園寺の檀家から相談を受けた佛子園が「障がい者の参画」と「地域の協力」を条件に、平成18年に土地・建物の寄贈を受け、リノベーションの上、平成20年に障がい者や高齢者をサポートする、地域のコミュニティ施設として設置しました。
- ・街は西園寺の開設前、55世帯でしたが、開設後はUターンで戻ってきた30～40代が子連れで移住し、現在、73世帯（令和2年1月1日現在）と、世帯数が約4割増えるなど効果が出ています。
- ・また、就労支援や居住支援事業を中心に事業を展開し、地域住民とともに運営することで、全世代が交流する場が形成されています。



西園寺



出典：全世代活躍まちづくりの推進に関する調査研究事業報告書

- ・西園寺本堂は、昼は食堂、夜は居酒屋として地域住民に開放しており、老若男女・多世代が日々集まる「地域コミュニティセンター」の役割を持っています。本堂では、新年会や納涼会などの年中行事を定期的で開催するほか、不定期に民謡会の発表やライブなどが開催され、町民が集う憩いの場となっています。
- ・本堂の一角に駄菓子屋コーナーを設けたことで、近所の子供が買いに来ており、自然と利用者である高齢者や障がい者等と触れ合う契機となっています。
- ・天然温泉「西園寺温泉」では、野田町の住民が無料で利用できるようになっており、入浴する住民と働く障がい者が交流する場となっています。一般の利用料は大人（中学生以上）400円、中人（小学生）150円、小人50円。入湯税が免除される「銭湯」とみなされたことから、利用料を低く抑えられています。
- ・「GOTCHA! WELLNESS KOMATSU」は株式会社五井建築研究所が設計し、道路向いにある古民家、燃糸工場をそれぞれカフェ、ウエルネスに建て替え、平成30年に完成した施設。建物をデッキテラスと渡り廊下でつないだ空間では、新たなコミュニティス



ペースとして様々なイベントが開催されています。

☆POINT

- ・遊休資源を活用。
- ・交流の場として、多世代が集まれる場づくり。
- ・昼夜で利用率(稼働率)を上げる工夫を行っている。
- ・住民の無料化などニーズを配慮している。また地域外の利用者にも配慮。
- ・障がい者の就労の場でありながら、住民どうしをつなぐ役割も果たしている。
- ・多機能でありながら、空間に仕切り・区切りを設けない運営で、異なる目的で訪れる人たちの交流や関わりを生じさせるレイアウト。
- ・デイサービスの場が夜は地域の集会の場になるなど、同じ場所を時間等によって異なる使い方をすることで、利用率(稼働率)を上げる工夫を行っている。
- ・近隣住民の温泉無料化、通いやすいウェルネスジムの設置など、地域の方が繰り返し通ってくる仕掛けがある。

## Ⅲ－２：「活躍・しごと」に関するアドバイス

「活躍・しごと」の機能を活かしたコミュニティづくりの取組事例をご紹介します、事例から見えるアドバイスをすることで必要な観点をご紹介します。

☆「しごとコンビニ」の取組事例・・・岡山県奈義町

・Column：石川県金沢市・「Share 金沢」における多世代の活躍

### ◇「活躍・しごと」におけるアドバイスの観点

- ・コミュニティで「活躍」することはあらゆる世代の多様な人々にとって生きがい、やりがいの支援につながり、結果として「就労」につながる可能性を高めます。
- ・「活躍・しごと」の形態は、「雇用」に限らず、育児や家事の合間に短時間の仕事を引き受けることや地域におけるボランティア等の「社会参加」も含まれます。そのため地域の女性や高齢者、障がい者等を含め、誰もがその能力を生かしてコミュニティの中で「活躍」できる多様で幅広いものを用意することが必要です。
- ・あらゆる世代の多様な人々にとって、「活躍」する場や機会があることにより、行政サービスの受け手としてだけでなく、主体的に地域のコミュニティの担い手となることが期待できます。

### ◇具体的なアドバイス方法

- ・「活躍・しごと」を中心とした取組実際のアドバイスに当たっては以下のような点を中心にアドバイスをすることが考えられます。

テーマ	課題の洗い出し・見える化	専門的な知識・ノウハウ
働く人のニーズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民ニーズの分析を行っているか</li> <li>・・・働く場、働く時間、給与</li> <li>・企業側のニーズ分析を行っているか</li> <li>・・・想定人材や職種、資格</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別ニーズを聞き取るための関係構築、地道な調査</li> </ul>
働く人の多様性に適した環境や仕組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者の支援や政調に適した環境や仕掛けがあるか</li> <li>・子育てしながら働ける環境や、子どもの成長に合わせたライフスタイルに対応できる環境や仕掛けがあるか</li> <li>・リタイア世代がこれまでのノウハウを活かせる環境・仕掛けがあるか</li> <li>・外国人労働者が働きやすい環境・しかけがあるか</li> <li>・社会参加につながる仕掛け・環境があるか</li> <li>・活動拠点の環境整備を考慮しているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレワークやサテライトオフィス、コワーキングスペースなど、多様な働き方を支える場</li> <li>・しごとコンビニのような地域課題の見える化、マッチング</li> <li>・地域の困りごとに対応する活躍の場づくり</li> <li>・ボランティアポイント等の活用</li> </ul>
地域へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域特有の産業や文化への観点があるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康・農業・6次化・ツー</li> </ul>

の視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 立地における課題や利点を考慮しているか</li> <li>・ 地域における学校（義務教育）や高校・大学への情報普及を行っているか</li> <li>・ 教育機関へのキャリア支援（講義等）の観点があるか</li> <li>・ 自治会等の取組や情報を活かしているか</li> </ul>	リズムと連動した活躍の場 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ローカルベンチャー育成、ビジネスコンテスト</li> <li>・ サービスの組み合わせによる地域の小規模産業の事業承継</li> </ul>
持続性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 継続的に収益を生む仕組みか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ しごとコンビニ（経済活動への貢献による収益の確保）</li> </ul>

### ◇事例

#### <岡山県奈義町の取組事例>

- ・ 奈義町では一般社団法人しごとえん（町民主体で法人化）が事業主体となり、子育て中の母親、チャイルドホームの利用者、保育園・幼稚園・小・中・高校生の保護者、シニア世代などを対象に、しごとコンビニ事業を実施しています。
- ・ しごとコンビニは、年齢や時間など「何かしらの制限」があり、これまで働きたいけど働けなかった人たちの、「ちょっとだけ働きたい」「誰かの役に立ちたい」「誰かと繋がりたい」「社会と繋がりたい」「これまでの経験を生かしたい」「成長したい」というニーズと、地元企業の「人手が足りない」というニーズをつなぐ事業です。
- ・ 地域が抱える少子高齢化や人口減少、人手不足などの様々な課題とも繋がりが深く、そうした課題の解決手法のひとつになっています。

（しごとコンビニのスキーム）

＼「ちょっとだけ働きたい人」と「ちょっとだけ手伝ってほしい人」をつなぐ事業／

### しごとコンビニ

雇用されるのではなく業務委託契約を結び、様々な「しごと」の中から自ら仕事を選び、働ける。自分の大切にしたい「こと」「ひと」を大切にしながら、都合の合う時間で、様々な仕事に挑戦でき、成長もできる新しい働き方。

しごと  
コンビニ  
(しくみ)

しごとコンビニでは難しいものは、求人チラシ「ハタラク」への掲載やハローワークをお勧め

これらの業務の手数料を依頼主様から頂いています



① ご依頼お問合せ



② ヒアリング現場確認



③ 契約書発注書



④ メンバー募集



⑤ 研修



⑥ おしごと実施



⑦ 振返り



⑧ 請求書送付報酬の支払

最近、紹介での登録が増えています

＼登録メンバーがおしごとをするまで／



① 説明・登録会



② 個別面談契約書



③ サークルスクエアへ登録



④ パソコンのスキルチェック  
チャットワーク・Skypeへ登録  
→ パソコン塾へ

テレワーク希望の場合



⑤ おしごと情報待ち  
したい仕事があれば  
人事部へ連絡

(奈義町のしごとコンビニ活用の様子)



空きガソリンスタンドを改修した「しごとスタンド」でしごとコンビニ事業を展開



しごとスタンドでのしごとの様子

- ・奈義町では、子供を持つ世帯の約半数が3人以上の子供を持つため、母親が社会と離れる期間が長期にわたるケースが多く、また、子育て世代ではフルタイムで働きたいというより、短時間だけ働きたい、社会との関わり合いを持ちたいというニーズが多くあります。一方、地方の商店等はフルタイムで働いてほしいというよりも、忙しい時だけ少し手伝ってほしいというケースが多く、これをマッチングすることを考えました。
- ・子育て世代がコミュニティに溶け込む場として、2007年度に保育園の空き施設を活用した「チャイルドホーム」を整備しており、子どもが生まれて、地域に溶け込むまでは「チャイルドホーム」、子どもが成長し、少しずつ働きたい場合は「しごとコンビニ」、フルタイムで働きたい場合は保育所に子供を預ける等、田舎であっても子育て中の女性が望むライフスタイルに合わせた選択肢を増やしています。

☆POINT

- ・時間的に制約がある人が働きやすいように、仕事を「時間×業務内容」で分解
- ・雇用ではなく「業務委託」という働き方を採用することで、自分の都合に合わせて仕事の内容や時間を選択
- ・子育て中の女性やなど、ライフスタイルに対応した就業の仕組みを地域ニーズに合わせて創出

・社会福祉法人佛子園が金沢市内で運営する Share 金沢には、サービス付き高齢者向け住宅（サ高住）、障がい児・障がい者入所施設、児童発達支援センター、放課後等デイサービスセンター、学生対象の賃貸住宅、レストラン、高齢者向けデイサービス&訪問介護ステーション、障がい者向けグループホーム、全天候型グラウンド、クリーニング取次店、コインランドリー、NPO 法人および民間企業オフィス、カフェ&バー、キッチンスタジオ、ボディケア店、共同売店、ブーツの工芸品ショップなどが軒を並べます。うち、主要な居住者は、サ高住、障がい児入所施設を利用する障がい児、学生対象の賃貸住宅に住む大学生です。Share 金沢のある金沢市若松町周辺エリアには金沢大学、金沢美術工芸大学、北陸大学などの高等教育機関が立地していることから、当該大学の学生が中心に暮らしており、入居学生には月 30 時間のボランティア活動を義務づけられています。

・主なところでは共同売店での商品販売、障がい児入所施設での衣類の洗濯や洗濯物を仕舞うしごと、天然温泉の稼働設備の電源スイッチを朝一番に押す役割など。金沢美術工芸大学の学生は、身につけているスキルを生かして、高齢者や障がい児に絵画を教えたり、Share 金沢敷地内のテナントの窓ガラスなどに事業 PR につながるイラストを描いたりといった活動をしています。上記の共同売店ではサ高住の入居者も学生と交代で日用品などを販売しており、学生と高齢者がともに働く姿が見られます。

## Share金沢





**この街をきれいに「洗濯」!**  
代表/大久保雅之



**美味しいものに囲まれない!**  
シェフ/石田祐一



**笑顔と幸せをつなぎます!**  
助産師/頼 玲菜



**人がつながら  
新しい街モデルをデザイン!**  
プロデューサー/下田武央



**楽しい音楽と  
うまい酒があふれる街に!**  
店長/北村悦子



### 私がつくる街

SOUTH地区	MIDTOWN	NORTH地区
<ul style="list-style-type: none"> <li>S-001 共同売店</li> <li>S-002 ニューももや(レストラン)</li> <li>S-003 S-Grill(店舗サービス)</li> <li>S-004 高齢者デイサービス・生活介護 訪問介護</li> <li>S-005 S-スーパーステーション</li> <li>S-006 クリーニング&amp;コンクリート「おしなれ洗剤 ハンズプラス」</li> <li>S-007 パルクヤード</li> <li>S-008 金沢東洋毛織センター「S-ペランダ」</li> <li>S-009 PSi-遠隔スポーツシステム提供拠</li> <li>S-010 キイスター・コミュニティセンター</li> <li>S-011 NPO法人 沢ノ子高齢者学校</li> <li>S-012 アトリエ付き学生向け住宅</li> <li>S-013 北陸学院大学「S-Stadium」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>M-001 サービス付き高齢者向け住宅</li> <li>M-002 サービス付き高齢者向け住宅</li> <li>M-003 サービス付き高齢者向け住宅</li> <li>M-004 学生向け住宅</li> <li>M-005 学生向け住宅</li> <li>M-006 学生向け住宅</li> <li>M-007 学生向け住宅</li> <li>M-008 学生向け住宅</li> <li>M-009 サービス付き高齢者向け住宅</li> <li>M-010 サービス付き高齢者向け住宅</li> <li>M-011 学生向け住宅</li> <li>M-012 学生向け住宅</li> <li>M-013 学生向け住宅</li> <li>M-014 サービス付き高齢者向け住宅</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>N-001 共同売店 共同売店</li> <li>N-002 ボディケアセラピスト「金澤山ゆかり」</li> <li>N-003 株式会社タラヤジャパン</li> <li>N-004 Planning &amp; Creative「グループ」</li> <li>N-005 Publin Bar「Mock」</li> <li>N-006 Foods &amp; Drinks「加藤キッチンスタジオ」</li> <li>N-007 アトリエ付き学生向け住宅</li> <li>N-008 サービス付き高齢者向け住宅</li> <li>N-009 サービス付き高齢者向け住宅</li> <li>N-010 ワクレレバレイ金沢</li> </ul>

シェア金沢  
〒920-1102 金沢市若松町10-4番1号 TEL:076-256-1010  
E-mail:sharekanazawa@boston.com



**スポーツを通して人づくり、街づくり!**  
所長/榎 敏弘



**元気な子どもと元気な未来をつくる!**  
代表/成田 裕



**この街の住人を元気に、  
健やかにする!**  
ボディケアセラピスト/吉原みゆき



**北陸のウクレレのメッカに!  
この街から世界発信!**  
代表/藤本美和、ナガイアキラ、Gen



**この街から金沢の  
新「食King」スタイルを創造!**  
代表/加藤重和



### Ⅲ－３：「住まい」に関するアドバイス

「住まい」の機能を活かしたコミュニティづくりの取組事例をご紹介します、事例から見えるアドバイスを  
 する上で必要な観点をご紹介します。

☆「住まい」に関する取組事例・・・鳥取県南部町、島根県津和野町

・Column：家守による地域とのつながりの確保

#### ◇「住まい」におけるアドバイスの観点

- ・「住まい」は、暮らしを通じた交流施設になるよう、コミュニティとの関係性を重視した住宅環境の整備等が大切です。
- ・プライバシーの確保も重要ですが、一方で、交流を目的とせず、暮らしの様子や遊び心が見えるデザインを重視した「住まい」など、住民同士が関係を構築しやすい地域コミュニティに開かれた場所であることが望ましいです。
- ・また、高齢者や子供、障がい者など、多世代が利用できることが大切です。
- ・周辺環境や街との位置関係、住民との接点など、暮らしがイメージしやすい立地を選ぶことが重要です。
- ・地域課題である空き家や遊休公共施設など既存ストックを改修やリノベーションすることにより、地域文化の継承、整備費用の低減と入居者負担の軽減等が可能となります。
- ・なお、地域の魅力なしには「住まい」の需要は見込めず、通常の住宅市場が成立しにくいなど、必ずしもビジネスベースにならない場合があるため、地域の事情や、地域独自の官民連携体制などを踏まえて、魅力ある「住まい」の運営を検討することが重要です。

#### ◇具体的なアドバイス

- ・「住まい」を中心とした取組実際のアドバイスに当たっては以下のような点を中心にアドバイスをすることが考えられます。

テーマ	課題の洗い出し・見える化	専門的な知識・ノウハウ
住む人のニーズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな住民のニーズ分析を行っているか</li> <li>・既存の住居環境について地域住民のニーズ分析を行っているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お試し住宅利用者などへのアンケートやヒアリング</li> <li>・需要層を設定したコンセプトに対するインターネット調査などマーケットリサーチ手法の援用</li> <li>・地域住民が参加するワークショップの開催や街歩きによる長所短所の抽出</li> </ul>
住む人の	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者や障がい者、外国籍、ひとり親など世代、家庭状況問わない住みや</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークインレジデンス、起業希望者向け住まい</li> </ul>

環境 や 仕 組み	<p>すい環境か</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てがしやすい環境か</li> <li>・医療福祉の手段にアクセスしやすいか</li> <li>・立地が適切か（周辺環境や空間デザインを考慮しているか）</li> <li>・防災や防犯など、安全性が確保されているか</li> <li>・「暮らしやすい」環境か</li> <li>・住民の相談事を解消する仕組みがあるか</li> <li>・住民が交流する機能や仕掛けがあるか</li> </ul>	<p>全世代型コミュニティカフェ、サロン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な交流イベント</li> <li>・サテライトオフィス機能</li> <li>・若者の居場所、多世代交流拠点</li> </ul>
建物の 状態 や 供給	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関・縁側・ウッドデッキ・納屋・ガレージなどつくり方を工夫しているか</li> <li>・「遊び心」が感じられる「住まい」か</li> <li>・遊休資産を利活用しているか</li> <li>・リーズナブルな価格設定か</li> <li>・公共が建物を供給・支援する仕組みがあるか</li> <li>・住宅利用者をサポートする仕組みがあるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家バンクなど、遊休不動産などの地域資源の抽出及び活用に向けた条件の把握</li> <li>・補助事業</li> </ul>
地域 や 企 業 と の 協 力 体 制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近隣の住民、専門家、NPO、ボランティアなどの理解・協力を得られているか</li> <li>・官民連携体制を構築しているか</li> <li>・自治会等、住民組織の理解や協力を得られているか</li> <li>・民間や金融機関等との協力体制はあるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域課題の見える化と共有</li> <li>・関係団地によるプラットフォームの設置</li> <li>・住民参加を通じた幅広い視点からみたメリット・デメリットの整理</li> <li>・自治会や業界団体への意向調査・ヒアリング</li> </ul>

#### ◇事例

＜鳥取県南部町 空き家を活用した分散型居住の取組＞

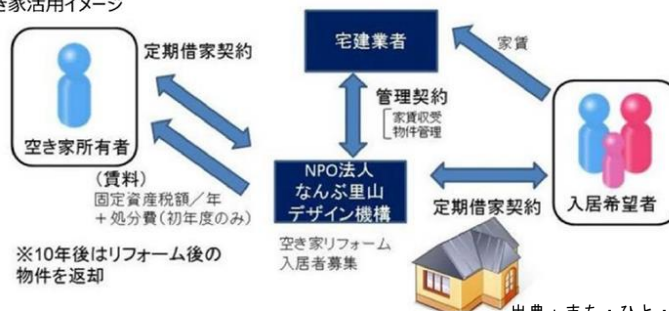
・南部町では、2016年に住民が主体となってまちづくり会社（NPO法人なんぶ里山デザイン機構）を設置し、民間で担うのが効果的なものについて、行政と連携しながら住民自らが生涯活躍のまちの取組を行う体制を構築しています。

・「住まい」の観点としては、2015年度に町が実施した空き家実態調査において、町内に約180棟の空き家があることが浮き彫りとなり、これらの空き家を地域資源とと



られ、以下のように、移住者に提供（賃貸）するスキームを運用しています

(図) 空き家活用イメージ



出典：まち・ひと・しごと創生本部事務局 HP

- ①機構が空き家所有者から10年間の定期借家契約を締結し借り上げ
- ②機構は水回りを中心に空き家をリフォーム（上限200万円）し、宅建業者に物件の管理を委託
- ③機構が物件所有者に支払う賃料は固定資産税相当額程度とし、残りをリフォーム代金や管理委託料に充当
- ④入居者の契約は2年毎に更新し、10年経過後は物件を所有者に返還（所有者の希望により更新も可能）

・また、空き家を住宅だけでなく、地域交流拠点等としても活用しています。整備の前にまちづくり会社が、地域住民や関係者と十分に検討を重ねることで、施設完成後も住民が主体的に運営に参加し、地域に根差した拠点整備に繋がっています。

【お試し住宅「えん処米や」】

・町が古民家を改修し、デザイン機構が運営しています。2階がお試し住宅、1階が地域交流拠点となっており、なんぶ里山デザイン大学（市民カレッジ）、コミュニティスクール、認知症カフェ等、幅広く活用しています。



出典：南部町 HP

【賀野地域交流拠点「えんがーの富有」】



出典：南部町 HP

・住民自治実践の場、移住者の活躍の場、地域経済活性化の場の創出を目的に町が新築整備しており、多目的スペースの他、地域振興協議会事務所、地域食材を活用したジェラートショップが入居しています。ジェラートショップは町内に移住した女性が起業し山陰では話題の店舗となっています。

【地域共生社会実現拠点「いくらの郷」】

・引きこもり者等地域で活躍する余地のある者の社会参加を促すことを主な目的に、町内社会福祉法人が古民家を改修し、施設運営を行っています。就労訓練として、耕作放棄地の再生、森林の間伐、薪割り等の農林業の他、宿泊受入、農作物を活用した特産品開発、地域住民との交流などを実施しています。

【手間地域交流拠点「てま里」】

・地域内外の交流人口増加による地域の賑わい創出を目的に、（一社）手間山の里が古民家を改修し施設運営を行っているもので、いつでも誰でも集まれる交流スペースを中心にテナントとしてゲストハウスとカフェ＆バーが入居しています。施設管理担当の地域おこし協力隊員は自身の英語のスキルを活かし、子ども向け英会話教室やインバウンド客対応などに活用しています。



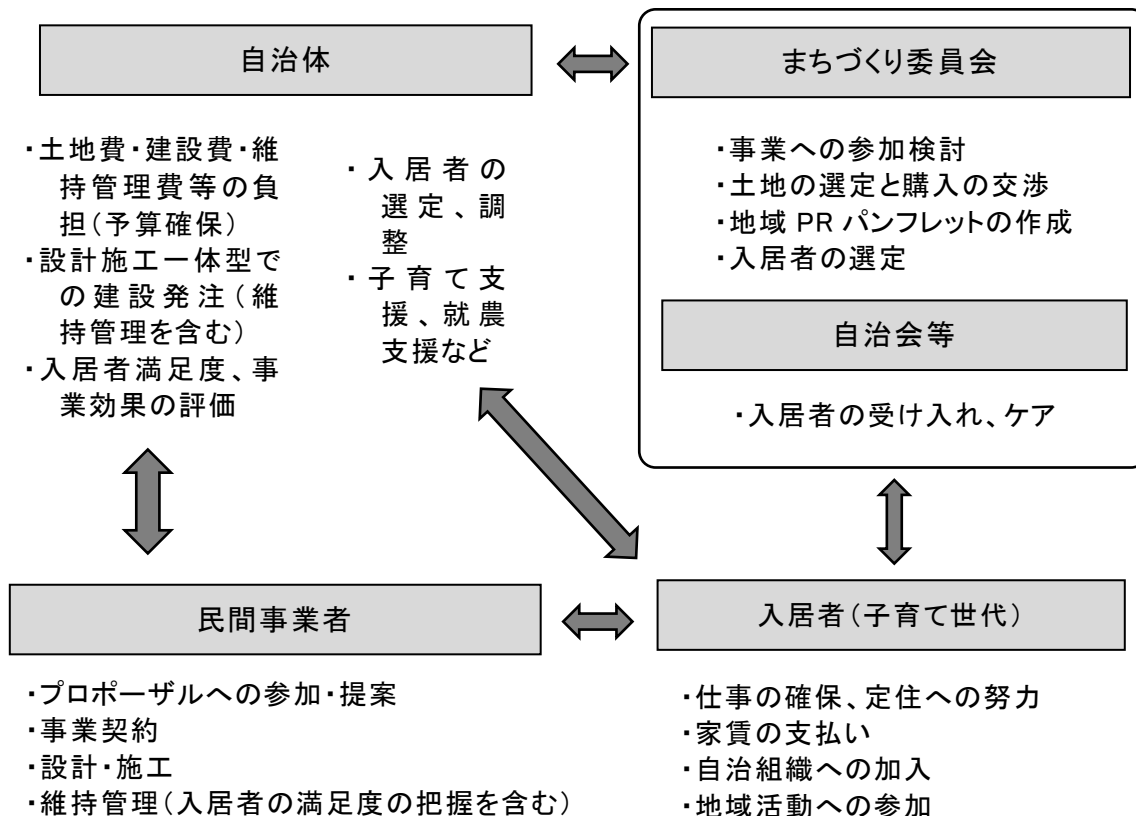
出典：南部町 HP

＜島根県津和野町 自治体による公的賃貸住宅（町有住宅）の整備＞

・同町の「つわの暮らし推進住宅」は、入居者を決めてから建設する（空き家リスクゼロ）という方式を採用しました。家賃は月3万円で、25年間、住めば無料で譲渡という条件がついています。この事業は、自治体が土地費、建設費、維持管理費等を負担して、町有住宅として建設し、管理・運営しますが、地域のまちづくり委員会が本事業への参加を決め、土地を選定するなど、地域の発意があって始めて動き始める点に特徴があります。入居者（移住者）の選定においても、地域のコミュニティが関与します。そのため入居後は、地域住民への紹介や様々な行事への参加など、入居者が地域コミュニティに溶け込めるよう、自治会等が様々な面で配慮してくれます。入居者も定着に向けた努力をしますが、特に定着には仕事を確保することが重要となり、林業関係や公的団体に就職するなど、「つわの暮らし推進住宅」に入居した世帯はほとんどが定着しています。



移住・定住に向けた公的賃貸住宅の官民連携スキーム  
(新規建設・町有住宅モデル)



☆POINT

- ・空き家を活用した地域で活躍する人材の誘致
- ・空き家を活用した拠点施設等の設置
- ・移住・定住に向けた公的賃貸住宅の官民連携
- ・地域のまちづくり委員会、コミュニティによる土地や入居者の選定

Column : 家守による地域とのつながりの確保

・定額の料金を支払うことで、一定期間サービスが利用できるサブスクリプションは動画配信から自動車や家具、家電などにおいても広がりを見せています。最近では同サービスが住宅分野でも導入されており、一般的に初期費用がなく家具・家電が備え付けられている日本国内の物件に住み放題であることが、ノマドワーカーなど都市並びに地方に拠点を構えたい人等のニーズに応えています。

・そこで、知らない地方で暮らす際の課題の一つとして挙げられるのが、周辺住民との関係づくりなどの地域コミュニティとの関わり方です。そのため、全国でコリングサービスをサブスクリプション方式で展開しているある会社は、物件の管理だけではなく、地域のコミュニティマネージャーの役割を担う「家守」を各物件に配置しています。

・「家守」となる方に特段のマニュアル等はなく、年齢制限もありません。また、プロのカメラマンやカフェの経営者など、多くの「家守」が定職に就きながら、入居者と地域住民の架け橋となり、地域の魅力を向上させるため、副業的に多様な取組を行っています。

・例えば、ユーチューバーである入居者の「観光以上、定住未満」な生活を望みつつも、地域に貢献したいという意向をくみ取り、「家守」が地域のキーパーソンを繋ぐことによって、入居者自らが当該地域のことを発信するようになったというケースがありました。

・また、家族で物件を利用し、田舎で暮らすのが楽しくなった子供のために、「家守」が行政と折衝することにより、行政がデュアルスクールを取り入れ、都市部の学校から1週間から1カ月、欠席扱いなしで田舎の学校に通えるようになったケースがありました。

・地域をよく知っている「家守」によって地域コミュニティが変わっていくこともあるのです。



家守、会員、地域の住民との交流（写真提供：株式会社アドレス）



## Ⅲ－４：「健康」に関するアドバイス

「健康」の機能を活かしたコミュニティづくりの取組事例をご紹介します、事例から見えるアドバイスを  
 する上で必要な観点をご紹介します。

☆「健康」に関する取組事例・・・埼玉県鳩山町

### ◇「健康」におけるアドバイスの観点

- ・心身両面における健康に加えて、人と人との関わりが充実し自分らしく生きがいをもっていること（社会的健康）も、地域で生活していく上で重要です。病気ではないことだけが、健康ではありません。健康におけるアドバイスで重要な観点は、まず健康づくり・介護予防といった、身体的・精神的・社会的に虚弱にならない取り組みです。もう1つは、身体的・精神的に虚弱になっても、自分らしく生きがいをもって暮らせるための支援的環境づくりです。これは高齢者だけに限るものではありません。特に社会的健康は、学校での友人関係の不和による不登校、心ならずの離婚によるシングル子育て、不本意な解雇による失業などによっても失われます。
- ・健康づくりの観点では、加齢により健康リスクが高まる中高年齢者だけでなく、全世代を対象とした運動や食事支援などのほか、社会参加をつうじて健康寿命を延伸させる取組が必要です。次に医療や介護が必要になった場合でも地域に住み続けられる各種の生活支援、住まいなどを一体的に提供できるようにする仕組みである地域包括ケアシステムや地域共生型システムとの連携が重要となります。
- ・地元住民や移住者、老若男女を問わず、長生きしたいと思えるような地域をつくっていくことが、大切なアドバイスの観点となります。

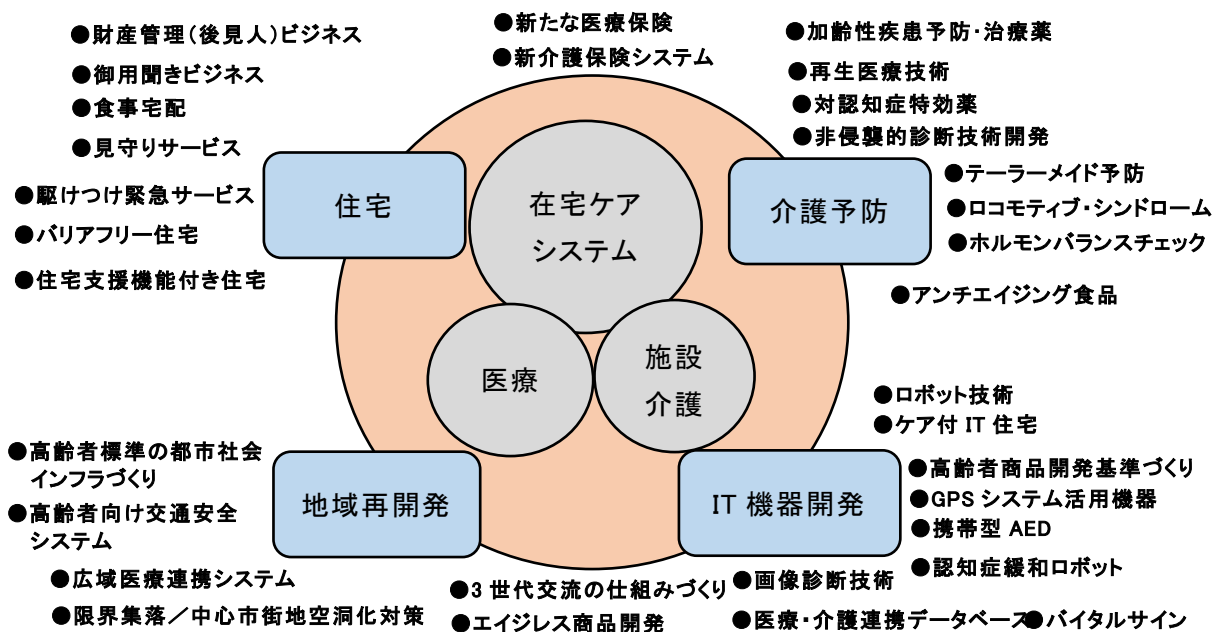
### ◇具体的なアドバイス

「健康」を中心とした取組実際のアドバイスに当たっては以下のような点を中心にアドバイスをするのが望ましいです。

テーマ	課題の抽出や洗い出し	専門的な知識・ノウハウ
生活の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「最低限度」の福祉的対応を超えて、生活の質の向上が図れているか</li> <li>・生きる意欲を育むコミュニティの形成が図れているか</li> <li>・い（医）・しょく（食・職）・じゅう（住）の観点から新しいニーズを掘り起こしているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーズを発掘するマネジメント能力</li> <li>・生活支援機器の活用や住環境の改善で実効的活動能力を向上</li> </ul>
虚弱期の	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弱っても暮らし続けられる住まいとコミュニ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅医療・地域医療について</li> </ul>

医療・介護システムの構築	<p>ティケアの環境を整備しているか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフコースに応じた課題（失業・離婚等）や介護に対して、たとえ心身機能が低下しても、これまでの暮らしが継続できるような支援環境を整備しているか</li> </ul>	<p>の概要（在宅医療介護連携推進事業、地域医療構想）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域密着型の在宅介護・生活支援</li> <li>・コミュニティケア（地域福祉）に対する理解</li> </ul>
フレイル予防	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予防とケア（生活習慣病予防、虚弱化予防、慢性疾患のケア、健康増進（1次予防））の観点から対策を検討しているか</li> <li>・介護予防（2次予防）、生活支援・介護）の観点から対策を検討しているか</li> <li>・健康に関連するコミュニティ活動を把握しているか</li> <li>・支援的（アシスティブな）生活環境 外出・社会的交流・社会参加の促進が図られているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康、運動、社会参加—フレイル（虚弱）に関するデータと社会参加の重要</li> <li>・ヘルスケア・ビジネス（サービス）</li> <li>・健康づくり人材育成</li> <li>・交流・活動・憩いの機会を提供する居場所と集いの場、住民の外出を促し、心身を活性化</li> <li>・健康づくりに関する最新の知識やデータの更新</li> </ul>
他のテーマとの接点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の社会資源を増やす</li> <li>・生活環境の充実を図れているか</li> <li>・社会的サービスへのアクセシビリティが確保されているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源の発掘、開発、醸成</li> <li>・徒歩と公共交通による公共公益施設や地域活動の場へのアクセス、必要なサービスの自宅・近隣までのデリバリーを可能にする。</li> </ul>

（参考：生涯活躍のまちに関連する医療・福祉関係のキーワード）



出典：東京大学高齢社会総合研究機構 ジェロントロジー・コンソーシアム資料

## ◇事例

＜埼玉県鳩山町 鳩山ニュータウン＞

・近年では高齢化と人口減少が進む埼玉県鳩山町には、昭和49年から平成9年にかけて分譲された郊外住宅地があり、町では、平成21年より東京都健康長寿医療センター研究所と共同で健康づくり事業や介護予防事業に取り組み、主に生活習慣病予防による疾病対策と、老化予防による介護予防を中心に、そのどちらにも共通する予防の基本として栄養・体力・社会参加の3つを掲げ、事業を展開してきました。



出典：鳩山町 HP

・閉校となった小学校敷地を活用し、福祉・健康複合エリア（特別養護老人ホーム、通所療養介護施設を併設する地域包括ケアセンター、校舎を再活用した多世代活動交流センターなどを設置）の整備や、ニュータウン内にある旧西友を再活用し、多彩な才能をもつ住民同士が、楽しく気軽に集い交流できるサロン、物づくりや販売にチャレンジできる「鳩山町コミュニティ・マルシェ」を生涯活躍の場として設置など、既存の施設を有効活用して健康づくりに寄与する場所を整備しています。

・具体的な取組としては、マルシェ内に「まちおこしカフェ」があります。「カフェ運営者」と「カフェ出品者」を募集し、地域特産品（①鳩山町の産物、②鳩山町の産物を主原料とした加工品、③町内の事業所で製造した加工品）の展示及び販売するもので、併せて、販売と合わせてカフェのランチ利用者及び交流サロンも運営しています。

・加えて施設内には、地域福祉の推進や拠り所づくり、ボランティア活動の支援、各種相談支援事業、地域見守り支援ネットワーク等を行うニュータウンふくしプラザやシェア・オフィスなど、多数の機能が設置されています。



出典：鳩山町 HP



出典：鳩山町 HP

### ☆POINT

- ・住民の社会的キャリアを再活性化
- ・地域包括ケアシステムのインフラ整備
- ・3本柱の健康寿命延伸の取組
- ・地域の住民活動と健康サポート施設の複合性

## Ⅲ－５：「人の流れづくり」に関するアドバイス

「人の流れづくり」の機能を活かしたコミュニティづくりの取組事例をご紹介します、事例から見えるアドバイスをする上で必要な観点をご紹介します。

☆「人の流れづくり」・・・長崎県壱岐市

### ◇「人の流れづくり」におけるアドバイスの観点

- ・「人の流れづくり」は地域に住む人々だけではなく、地域に必ずしも居住していない地域外の人々に対しても、地域のコミュニティに関わる担い手としての活躍を促すことが重要です。
- ・地域外の人々がふるさと納税を通じて地域を応援することや地域の祭りに定期的に参加し、運営に携わること、あるいは副業・兼業で週末に地域の企業・NPOで働くことなど、その地域や地域の人々と多様な形で関わることを通して、地域にイノベーションや新たな価値を生み出すことにつながるほか、将来的な移住者の増加にも結びつくことが期待されます。
- ・このため、地域に関わる人や企業をより増大させることを目指すため、必ずしも「移住」のみに限定するのではなく、人の流れをより広義で捉え、移住のみならず、都市部との人材循環など関係人口づくりを含めたコミュニティへの人の流れの取組が重要です。
- ・また、地方と都市部企業が双方で取り組む人材循環においては、地域人材（自治体、事業者、地元企業、地域住民）と都市人材（都市部の企業及びその社員）の、それぞれのニーズや課題をとらえて、人材交流の場の選択肢を検討することが重要です。（企業と地域のニーズ例）

企業側の目的			地域側の目的	
目的	担当部署	地域への出向き方	目的	具体的内容
企業価値向上	経営トップ	・SDGsへの貢献、健康経営、働き方改革等	地域企業の担い手確保、事業発展	・地域に必要な新サービスの成立可能性 ・地元企業の事業承継実現 ・地元企業の経営力の向上（競争力、人手不足解消） ・地元企業の売上の増加 ・行政の補助・支援からの自立 等
既存事業推進	営業等	・地域活動・副業を支援しながら、自社商品の新たな販路拡大・ニーズ収集	地域消費の拡大・経済効果	・地元企業の売上の向上 ・ふるさと納税等による納税額の増加
新規事業開発（イノベーション）	事業開発	・地域資源を活用した商品・サービス開発 ・サテライトオフィス（優れた環境での研究開発）	地域活動への参加者確保	・イベントや地域保全活動実施のための人手の確保 ・イベントや地域保全活動の維持・存続 ・インフラ維持のための人手の確保
人材育成	人事	・課題解決力を高めるOJT ・若手社員への視野を広げるOJT	地域の雰囲気、機運醸成、住民の活動喚起	・地元の人・団体の活動に誇り ・地元地域に対する誇り醸成 ・地域資源の価値の見直し ・地元の人・団体の活動の質/種類の増加 ・地域活動に住民が参加するようになった ・住民発案の取組が行われるようになった
セカンドキャリア形成支援	人事	・転職先探しの支援（見学・体験、スキル習得等）		
福利厚生・働き方改革・リフレッシュ等	人事	・ワーケーション ・スキルアップ ・副業		
SDGs	経営企画	・地域資源管理・保全の担い手 ・地域人材の育成（寄付講座）		

企業側の人材循環推進への主な課題	地域側の人材循環推進への主な課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・費用対効果が見えない</li> <li>・人事制度上との整合が必要</li> <li>・交通費負担</li> <li>・具体的な連携先が分からない</li> <li>・地方における就業環境確保 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業受入の具体的なイメージが分からない</li> <li>・受入による地域活性化への活かし方が分からない</li> <li>・企業へのPR、募集方法がない</li> <li>・受入環境の整備 等</li> </ul>

出典：全世代活躍まちづくりの推進に関する調査研究事業



◇具体的なアドバイス

・「人の流れづくり」を中心とした取組実際のアドバイスに当たっては以下のような点を中心にアドバイスをするのが望ましいです。

テーマ	課題の抽出や洗い出し	専門的な知識・ノウハウ
情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信先（ターゲット）が明確か</li> <li>・ターゲットがアクセスしやすい情報・サービスが提供できているか</li> <li>・情報発信先のニーズに応えているか</li> <li>・情報は効率的に届く仕組みになっているか</li> <li>・「訪問・体験」など、次の行動への後押し</li> </ul>	<p>【ターゲット】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会課題への関心、関係人口予備軍となる幅広い層等</li> </ul> <p>【発信する情報】</p> <p>地域の人に焦点を当てた情報、関心を想起しやすい分野の発信、物語として魅力的な発信</p> <p>【接点づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアミックス、イベント開催</li> </ul> <p>【効率的な情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・検索機能の充実、レコメンド機能</li> </ul> <p>【行動の後押し】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・オンラインサロン等の双方向の交流</li> </ul>
訪問・体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味関心を引くプログラムとなっているか</li> <li>・期待できるプログラムを提供できているか</li> <li>・プログラムに参加しやすいか</li> </ul>	<p>【プログラムへの興味喚起】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己実現や地域課題解決をテーマとしたプログラム</li> </ul> <p>【プログラムへの期待向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力的な地域資源、人との出会いを重視、地域課題の可視化</li> </ul> <p>【参加しやすいハードル設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移住を前提としない関わり方の提案</li> </ul>
滞在	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加を後押しする情報やコミュニケーションを提供できているか</li> <li>・地域滞在時の活動は充実した支援となっているか</li> <li>・地域とのつながりを深める機会が提供できているか</li> </ul>	<p>【情報とコミュニケーションの提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分事できる情報提供、直接対面での相談の機会、その土地ならではの案件を提供</li> </ul> <p>【滞在時の充実した支援】</p>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報面・マッチング面・資金の面からサポート、ニーズに合う施設・整備の提供</li> <li>【つながりの深化】</li> <li>・つながりの醸成のために中間期のプログラムを提供、地域交流イベントの提供</li> </ul>
民間企業とのマッチング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若手職員の人材育成</li> <li>・経営幹部のスキル・キャリアアップ</li> <li>・セカンドキャリアの醸成に活用できるか</li> <li>・兼業・副業に活用できるか</li> <li>・地域での事業開発か可能か</li> <li>・企業ブランディングが向上するか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【社内制度や給与の条件】</li> <li>・費用負担、身分保証、社内制度の条件設定</li> <li>【社員の健康】</li> <li>・メンタルヘルスの改善</li> <li>【人材活用の方向性】</li> <li>・能力開発</li> <li>・人生100年時代の働き方</li> <li>・新しい働き方の在り方（ワーケーション等）</li> <li>【経営の視点】</li> <li>・企業経営の充実</li> <li>・地域課題解決などの社会貢献</li> </ul>

#### ◇事例

＜長崎県壱岐市 関係人口創出の取組＞

・壱岐市では、福岡市内から船で1時間、南北17km・東西14kmのコンパクトな離島という立地や自然環境を活かして、関係人口の創出事業を行っています。

・例えば、テレワークやワーケーションの推進として、コンパクトな島のどこにいても仕事ができるようにWifiや椅子

等を貸し出す「モバイルオフィスレンタル」の取組や豊かな自然の中におけるアウトドア体験等を通じて、リラックスしながら新しい発想を生むための「アウトドアオフィス」の取組を行っています。

・また、「壱岐イルカパーク&リゾート」ではイルカと触れ合える体験ができるほか、隣接されたカフェやキャンプスペースにおいて、無料Wi-Fi等の貸出を行い、ワーケーションができる環境も整備しています。

・その他、テレワークの施設としては、国指定の特別史跡「原の辻遺跡」内に、元は遺



出典：壱岐市 HP

物の保管庫であった既存の施設を改修して、遺跡を眺め歴史を感じながら、仕事に従事するだけでなく、都市部企業の誘致の拠点としても活用できるような施設を整備しています。

### 03.島中どこでもワークプレイス！

訪れた方が島のどこでも仕事ができるようにmobile outdoor officeを展開。その名の通り「モバイルWiFi」「モバイルバッテリー」「椅子」「テーブル」「タプ」等をレンタルします。好きな場所で、自分のペースで仕事ができるので効率も上がり、今までにはないユニークな発想も生まれるかも。

そして、リゾート型テレワークセンター「フリーウィルスタジオ」。こちらはネット環境はもちろん、短期滞在型シェアハウスも完備しています。ご家族で訪れた方にも手ぶらキャンプや手ぶらBBQも準備しており、気軽に島の自然を楽しんでいただけます。

● 老舗フリーウィルスタジオ  
>詳しくはこちら






#### イルカと一緒に仕事をしよう！

老舗イルカパーク&リゾートでは、無料WiFiと電源を自由にご利用いただけます。イルカを眺めながら、テレワークやワーケーションにご活用ください。夏休みが近い日は、無料でsnowpeakのキャンプ機材を使っての休日も可能です。また、どこでも仕事ができる持ち運び用のテーブル椅子・電源もセットにした、ワーケーションパックも貸し出ししています。

 <p><b>Dolphin Park Camp</b></p> <p>イルカの息遣いが聞こえる距離での宿泊。閉園後の静かなパーク内でゆっくりお過ごしいただけます。</p>	 <p><b>手ぶらで Island Camp</b></p> <p>島内キャンプ場で大自然を楽しむための、キャンプ機材レンタルがついた2名様用プラン。</p>	<h3>手ぶらCAMP</h3> <p>by snowpeak</p>  <p>"道具を持っていない方"でも手軽にキャンプ体験！</p> <p>● snowpeak認定の手ぶらCAMP</p> <p>snowpeak指定の機材をそろえた、島内キャンプ場で大自然を楽しむためのレンタルプランです。</p>	
--	--	---	---

出典： 老舗イルカパーク&リゾート HP  
(一社) 老舗みらいづくりにサイト HP

#### ☆POINT

- ・地方を拠点にすることで生まれる新しいアイデアやビジネスプラン
- ・島の特性を生かしたサテライトオフィスやワーケーション環境の提供
- ・ワーケーションを通じた都市部社員のライフスタイルの向上

## Ⅲ－６：総括

### 総括

- ・ これまで5つの機能を個別にご紹介してきましたが、事例にもみられるように、それぞれの事業は、一つ一つの機能が「点」でありながら、連動してよりよいコミュニティづくりを推進していくものです。つまり「点から面」を意識し、コミュニティ全体の魅力の向上を図るという視点が必要となります。
- ・ また、これらの各機能を、地域の特性や課題に応じて、既存の取組を生かしながら、中長期的にコミュニティ全体で各機能を満たしていくことが重要です。
- ・ アドバイザーはこうした「点から面」「中長期的」な視点を持って地域と関わりを持つことが重要です。

## IV. より実践的なアドバイスに向けて

国における「生涯活躍のまち」の推進のための取り組みを理解してもらい、次のアクションに繋げる。

◇POINT

IV-1：アドバイザーの試行的事業の報告

IV-2：その他参考

### IV-1：アドバイザーの試行的事業の報告

「生涯活躍のまち」を推進している自治体向けにアドバイザーを選定・派遣し、課題解決のサポートを行う試行的事業の概要を報告します。

☆高知市の試行的事業

☆駒ヶ根市の試行的事業

☆南伊豆町の試行的事業

#### ◇高知市

<高知市版「生涯活躍のまち」構想の目的>

《キャッチコピー》生涯現役！ こうちらいふで「人生二毛作」

○新しい人の流れや交流を生み出し、本市への移住・定住者の増加をめざす。

○子どもから高齢者までの全ての市民が、夢と希望を持って暮らすことができる、にぎわいと安心のまちづくりをめざす。

○経験や知識を活かし、本市の各分野で活躍する意欲を持つ中高年齢者（アクティブシニア）がターゲット。

<現状>

○実施主体による移住促進が伸び悩んでいる。KPIの達成が困難。

○実施主体からは「高齢者向けの住まいやしごとがないからアクティブシニアの移住が進まない」「商店街との連携などが進まないことから地域における移住者の受け皿ができていない」等の問題点が指摘。

○自治体と事業者の間で問題意識及び最終ゴールの認識が共有されていない。

<アドバイザーの選定・派遣（2020年8月24日～26日に現地調査を実施）>

○アクティブシニアの移住促進に当たっては住まいの問題が大きいことから、不動産コンサルティング会社に勤務するアドバイザーを選定し、高知市に派遣。

<課題の抽出>

○高知市の設定したKPIに対する実施主体の具体的なアクションが弱く、事業として成果を上げられていない。

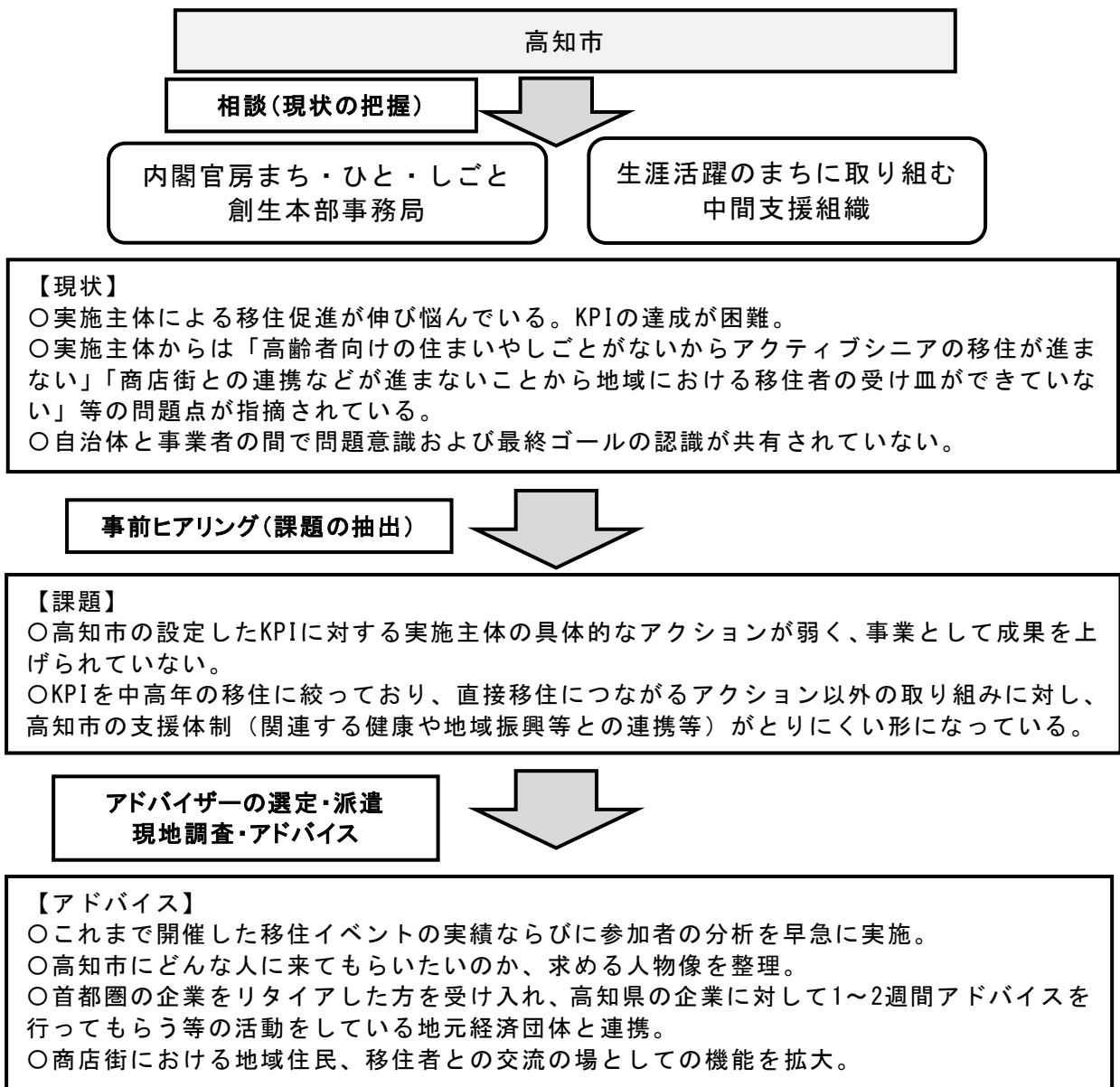
○KPIを中高年の移住に絞っており、直接移住につながるアクション以外の取組に対

し、高知市の支援体制（関連する健康や地域振興等との連携等）がとりにくい形になっている。

＜アドバイスの内容＞

- これまで開催した移住イベントの実績ならびに参加者の分析を早急を実施。
- 高知市にどんな人に来てもらいたいのか、求める人物像を整理。
- 首都圏の企業をリタイアした方を受け入れ、高知県の企業に対して1～2週間アドバイスを行ってもらう等の活動をしている地元経済団体と連携。
- 商店街振興の機能を地域住民、移住者との交流の場にまで広げる。

＜本事業の流れ＞



帯屋町商店街の視察



経済団体へのヒアリング調査

## ◇駒ヶ根市

### <駒ヶ根市版「生涯活躍のまち」構想の目的>

#### 《キャッチコピー》人生100年時代型多世代交流コミュニティの実現

このまちに来たい、住みたい、住み続けたいと思える人が増えるように、地域の魅力を高め、誰もが居場所と役割を持ち、つながりを持って支え合う地域づくりに取り組み、地域活力の確保や安心な暮らしの確保を目指す。

### <現状>

- 昨年度、Education、Contributionを組み合わせた「駒ヶ根版ワーケーション」に取り組んだが、成果が上がっていない。どうやって関係人口の拡大をめざせばいいのか悩んでいる。
- 駒ヶ根市約1万2,800世帯のうち、1万500世帯に配布されている商店街カードが、その普及率の高さにかかわらず、その利用方法やデータが有効に活用されていない。ITの技術を駆使して、カードのもっている市民のニーズを把握し、商店街の再生などに資するようなものにしたい。

### <課題の抽出>

- ワーケーションについて企業側の理解が得られないというのが主な理由であるならば、企業が取り組もうと思うようなプログラムをつくるために都市部の関係者のニーズを把握することが必要。ワーケーション以外の取組も検討すべき。
- カードを駒ヶ根市が展開している健康ポイントと連動させる可能性を広げるためのアイデアや技術が求められている。

### <アドバイザーの選定・派遣（2020年10月12日～14日に現地調査を実施）>

- ワーケーションも含めた広く人の流れづくり：旅行会社のアドバイザー
- カードの活用：エレクトロニクスメーカー・総合ITベンダーのアドバイザー

### <アドバイスの内容>

#### 《人の流れづくり》

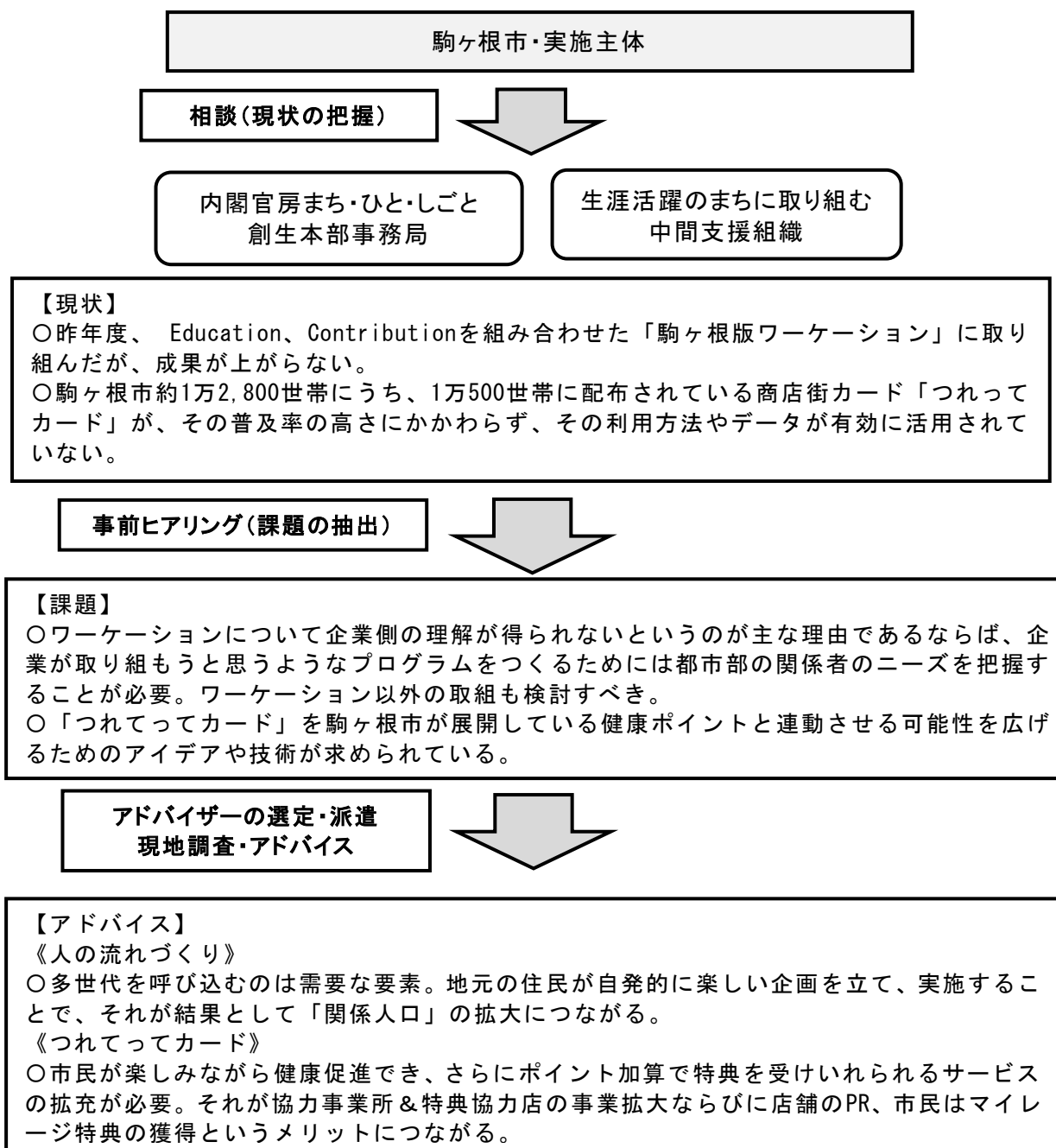
- 現在、海外に行きたくても行けない、語学研修が受けられないという人たち向けの代案としてJICA（国際協力機構）のプログラムを活用できると思うが、その際には「なぜ駒ヶ根なのか」の説得材料が必要。人を呼び込むのは必要な要素。「子育て層を対象にしたバザーの開催」「空き家店舗を条件付きで自由に商売してもよいとしてみる」など、地元の住民に働きかける提案を行い、上記のようなチャレンジから「関係人口」は拡大が可能である。

#### 《つれてってカード》

- 市民が楽しみながら健康促進でき、さらにポイント加算で特典を受けいられるサービスの拡充が必要。「健診やがん検診ポイント」「ラジオ体操参加ポイント」など、新たなサービスを加えることで、協力事業所&特典協力店の事業拡大ならびに店舗のPR、市民はマイレージ特典の獲得というメリットにつながる。



<本事業の流れ>



自治体・実施主体へのヒアリング調査



最終日の報告会

## ◇南伊豆町

<静岡県南伊豆町における全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」>

《コンセプト》学びあい、認めあいながら、地域全体でつくる健幸、活躍、共生のまちづくり

- 地域で活躍することのできる「学びあい、認めあいながら、地域全体でつくる健幸、活躍、共生のまちづくり」を目指し、町内全域で既存資源を活用しながら事業を推進。
- 地域の人と資源の活用。古くから交流のある東京都杉並区との連携による地方創生の実現。

<現状>

- 当初の「生涯活躍のまち」構想の基本であった旧湊病院跡地におけるハード整備の事業が頓挫した後、首長の交代などもあり、新たな政策の方向性が明確に打ち出せていない。
- 「生涯活躍のまち」全体の事業にどういった形で統一性をもたせ、どういう方向に向かっていけばいいか。南伊豆町庁内において生涯活躍のまちの課題感が統一できていない。

<アドバイザーの選定・調査（2021年1月27日～29日。オンラインで実施）>

- 南伊豆町が「生涯活躍のまち」における柱として健康づくりを重視していることから、地方公共団体と連携し、フィットネスクラブの運営などのスポーツ事業を展開する企業に勤務するアドバイザーを選定。

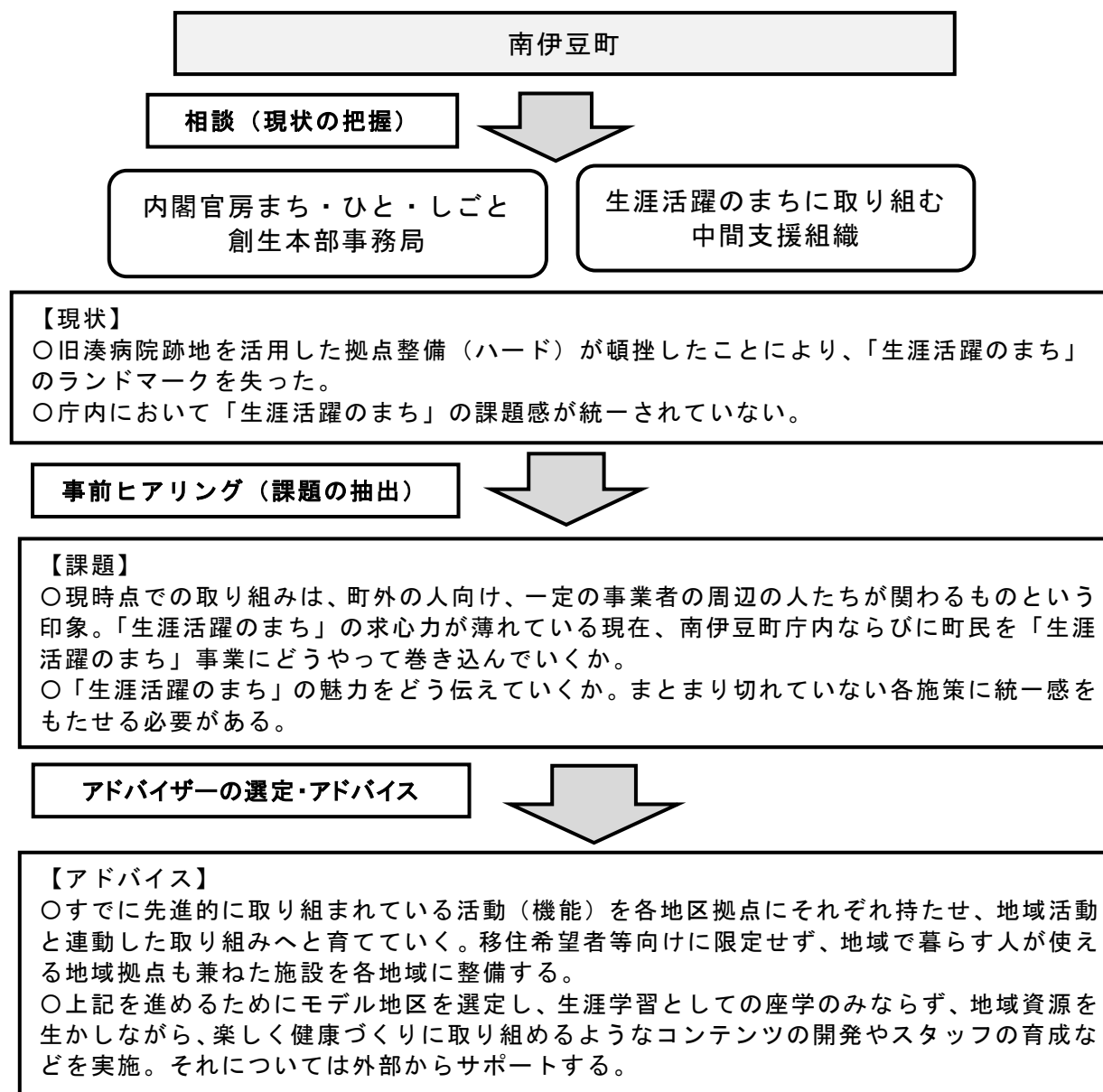
<課題の抽出>

- 地域における個々の取り組みは、人と人との関係づくりを大切にしたものだが、移住者向け、あるいは事業者周辺の一定の人たちが関わるものが中心となっている。
- 南伊豆町庁内ならびに町民を「生涯活躍のまち」事業にどうやって巻き込んでいくか。もしくは「生涯活躍のまち」の魅力をどう伝えていくか。まとまり切れていない各施策に統一感をもたせる必要がある。

<アドバイスの内容>

- すでに先進的に地域づくりに取り組んでいるモデル地区を皮切りに地域展開を図る。具体的には、お試し住宅、テレワーク／コワーキング、コミュニティスペース／サロン活動等、移住希望者等向けに限定せず、地域ニーズを踏まえたその他の機能を付加することで、地域で暮らす人が使える地域拠点を兼ねる施設として各地域に整備する。
- 「生涯活躍のまち」を移住者支援から住民参画へと方向性を転換し、住民が恩恵を感じられる、地域が喜ぶ取組として展開する。その点については、自治会とは別に地域振興協議会を立ち上げ、町全体の向上を図る鳥取県南部町の事例が参考になる。
- モデル地区を選定し、南伊豆くらし図鑑、生涯学習、移住促進、ビジネスマッチングなど個別の活動を集約。なかでも生涯学習アクティビティとしてヨガ、ワークアウトエクササイズ、アウトフィールドフィットネス、脳トレなどを実施する。

<本事業の流れ>



## IV - 2 : その他参考資料

### ◇「生涯活躍のまち」に関する主なHP

#### ○生涯活躍のまち～全世代・全員活躍型コミュニティづくり～

「生涯活躍のまち」推進に関するコンテンツ、自治体の取り組み事例など。

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/about/ccrc/>

#### ○「生涯活躍のまち」づくりに関するガイドライン～全世代・全員活躍型コミュニティづくり～

新たな全世代・全員活躍型の「生涯活躍のまち」の推進のため、取組を検討あるいは既に推進している地方公共団体や事業者向けに基本的な考え方等を示している。

[https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/about/ccrc/shienmenu/pdf/202007\\_shougai\\_guideline.pdf](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/about/ccrc/shienmenu/pdf/202007_shougai_guideline.pdf)

#### ○「生涯活躍のまち」づくりに関するガイドライン～別冊資料集～

「生涯活躍のまち」に関する取組の参考となる資料ならびに地域再生法（生涯活躍のまち関係部分）の解説を掲載。

[https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/about/ccrc/shienmenu/pdf/202007\\_shougai\\_guideline\\_shiryou.pdf](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/about/ccrc/shienmenu/pdf/202007_shougai_guideline_shiryou.pdf)

#### ○地方創生関係交付金

地方創生交付金の概要ならびに各種交付金に関する詳細など。

<https://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/about/kouhukin/index.html>

#### ○生涯活躍のまちに関する地域の意向調査

地方公共団体向けに行った「生涯活躍のまち」意向等調査結果

[http://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/about/ccrc/ikou/#ikou\\_chousa](http://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/about/ccrc/ikou/#ikou_chousa)

#### ○「生涯活躍のまち」に関する参考施策集

関連制度を「生涯活躍のまち」の基本構成要素である「住まい」、「ケア」、「活躍」、「移住」の4要素に分類して整理。

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/about/ccrc/shienmenu/#kankeishoucho>

#### ○その他（有識者会議、自治体等の担当者会議、調査研究事例、関係法令・通知等）

有識者会議、自治体等の担当者会議、調査研究事業、関係法令・通知等。

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/sousei/about/ccrc/etc/>

#### ○「eラーニング講座」140：生涯活躍のまち

「生涯活躍のまち」づくりを考える上での考え方と手法を学ぶ。

<https://chihouseisei-college.jp/e-learning/basic/introduction/140.html>